

2018年度
新潟大学教育学部 年報
THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

17

新潟大学教育学部

教育学部年報2018目次

1. イベント・カレンダー	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
2. 特色ある教育活動	4
2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要	
2.2 フレンドシップ実習	
2.3 入門教育実習	
2.4 佐渡実習	
2.5 研究教育実習	
2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業及び関連事業	
2.7 教育実習	
2.8 介護等体験	
2.9 インターンシップ ・企業等インターンシップ	
2.10 各課程の特色ある教育活動	
2.11 中・高校生等の大学見学	
3. 就職支援	28
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用試験対策支援プログラム	
3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス	
3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス	
3.5 臨時教員希望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教職サポートルーム	
4. 学部FD	34

5. 地域貢献	35
5.1 平成30年度中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」	
5.2 教育委員会との連携事業	
5.3 委員等就任状況	
6. 国際交流	40
6.1 学部教育の国際化事業	
6.2 学術交流（研究者派遣）	
7. 附属施設の活動	45
7.1 附属新潟小学校	
7.2 附属新潟中学校	
7.3 附属特別支援学校	
7.4 附属幼稚園	
7.5 附属長岡小学校	
7.6 附属長岡中学校	
8. 外部資金	64
8.1 科学研究費助成事業	
8.2 寄附金	
8.3 受託研究および受託事業	
8.4 共同研究	

〔巻末資料〕

入学者状況

就職状況

附属学校生徒数

1. イベントカレンダー

1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	2日	入学者受付
	3日	新潟大学入学式, 教育学部新入生保護者懇談会
	4日	教育学部学年別ガイダンス (1年次, 3年次)
	5日	教育学部学年別ガイダンス (1年次, 2年次, 4年次)
	6日	介護等体験事前指導
	7日	黎明祭
	9日	第1学期授業開始
	24日	新潟県公立学校教員採用選考検査, 新潟市立学校教員採用選考検査 (願書受付期間) (~5/18)
	25日	教採合格ガイダンス (4年次学生向け)
5月	28日	教員採用試験支援プログラム (理科実験 (~6/22まで随時実施))
	29日	教員採用試験支援プログラム (教員採用検査合格者 (卒業生) による模擬授業の見学)
	31日	教員採用試験支援プログラム (小論文指導)
6月	4日	春期教育実習 (~6/15)
	21日	教育学部後援会役員会
	27日	教員採用試験支援プログラム (特別支援教育)
7月	3日	教員採用試験支援プログラム (模擬授業: 全4回) (~7/31)
	7日	新潟市立学校教員採用選考検査 (第1次検査) (~7/8), 教育学部後援会理事会・総会
	8日	新潟県公立学校教員採用選考検査 (第1次検査)
	18日	教員採用試験支援プログラム (場面指導)
	25日	新潟市中堅教諭等資質向上研修【教職12年経験者研修】 (~12月)
	26日	第1学期定期試験 (~8/6)
8月	9日	新潟大学オープンキャンパス (~8/10)
	11日	夏期休業 (~9/30)
	17日	新潟市立学校教員採用選考検査 (第2次検査) (~8/19)
	18日	新潟県公立学校教員採用選考検査 (第2次検査) (~8/21)
9月	3日	観察・参加実習 (~9/7)
	10日	キャリア支援ガイダンス (2年次学生向け)
	20日	秋季卒業式
	28日	全学就職総合ガイダンス
10月	1日	秋季入学式, 第2学期授業開始
	9日	新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
	10日	三条市教育委員会と教育学部との連携推進協議会
	12日	教員採用試験受験者向けガイダンス (3年次学生向け)
	20日	新潟大学WeeK 2018 (~10/28)・新大祭 (~10/21)
	22日	秋期教育実習 (~11/2)
11月	1日	臨時採用教員希望者登録ガイダンス
	20日	教育実習運営協議会
	24日	推薦入学試験・養護教諭特別別科入学試験
	26日	公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー
12月	19日	養護教諭特別別科入学試験 合格者発表
	21日	教員採用試験支援プログラム (教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス)
	27日	冬期休業 (~1/6)
1月	7日	授業開始
	19日	大学入試センター試験 (~1/20)
	24日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会
	30日	第2学期定期試験 (~2/8)
2月	12日	推薦入学試験 合格者発表
	13日	新潟県教育委員会と教育学部との連携推進協議会
	25日	新潟大学入学試験 (前期日程) (~2/26)
3月	8日	新潟大学入学試験 (前期日程) 合格者発表
	11日	春期休業 (~3/31)
	12日	新潟大学入学試験 (後期日程)
	14日	教育学部後援会理事会
	22日	新潟大学入学試験 (後期日程) 合格者発表
	25日	新潟大学卒業式, 教育学部卒業祝賀会

1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》			《 附属新潟中学校 》			《 附属特別支援学校 》		
月	日	事 項	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	9	1学期始業式・入学式	6	着任式, 1学期始業式, 入学式	9	新任式, 第1学期始業式		
	17	全国学力・学習状況調査(6年)	17	全国学力・学習状況調査(3年)	10	入学式		
	19	第1回父母教師会実行委員会	23	第1回父母教師会実行委員会	18	高等部3年生修学旅行(~20日)		
	20	1年生を迎える会	27	授業参観, 父母教師会総会, 教育振興会総会	20	中学部遠足		
	23	第1回避難訓練						
27	全校参観日・父母教師会総会							
5	19	附属大運動会	12	第44回ときわ体育祭	8	小学部遠足		
	24	第2回父母教師会実行委員会	17	ボランティア発足式	9	第1回避難訓練		
6	4	春季教育実習(~15日)	1	1学期定期テスト(~4日)	4	春季教育実習(~15日)		
	14	1~4年登山(弥彦山)	4	春季教育実習(~15日)	18	高等部職場実習(~7/6)		
	18	第2回避難訓練	8	すなやま完歩大会		学校説明会①		
	22	全校参観日	13	市内陸上大会(~14日)	25	学校説明会②		
			18	新潟市体育大会(~19日)				
			28	新潟地区陸上大会(~29日)				
7	24	1学期終業式	3	新潟地区大会(~4日)	5	中学部校内宿泊学習(~6日)		
	27	市陸上記録会	11	午前授業・個別懇談会(~18日)	24	第1学期終業式		
			20	1学期終業式				
8	3	新潟市水泳記録会	7	北信越総体(石川~10日)	17	全校登校日, 入門教育実習②		
	8	県内九附属合同部会	8	県内九附属合同部会	18	高等部登校日		
	27	2学期始業式	17	全国中学校体育大会(中国地区~25日)				
	29	佐渡自然教室(5年)(~31日)	24	2学期始業式				
9	3	2年次観察参加実習(~7日)	3	2年次観察実習(~7日)	3	第2学期始業式		
	11	立山自然教室(6年)(~14日)	12	父母教師会実行委員会	7	第2回避難訓練		
	20	第3回父母教師会実行委員会	15	演劇発表会	11	高等部特体連スポーツ大会		
	21	全校参観日	28	市総体(陸上)	13	中学部3年生修学旅行(~14日)		
	13	附属オータム研修会(~28日, 全8回)			25	高等部職場実習(~10/12)		
10	5	入学希望説明会	4	市総体(西地区~5日)	15	入学者選考検査		
	13	附属アートミュージアム	19	教育研究発表会	19	入学許可者公示		
	22	秋季教育実習(~11月2日)	22	秋季教育実習(~11/2)	22	秋期教育実習(~11/2)		
	26	クロスカントリーin母の森						
11	3	GATA-KEN	5	学校説明会(午後)	7	小学部・中学部なかよし運動会		
	17	附属ミュージックステーション	9	2学期定期テスト(~12日)	30	特別支援教育研究会		
	21	第3回附属三校合同避難訓練	17	第39回音楽のつどい				
			21	第3回附属三校合同避難訓練				
12	1	新1年生入学選考①	4	生徒会立会演説会	12	高等部宿泊学習(~14日)		
	4	新1年生入学選考②	8	新1年生入学選考(~9日)	21	第2学期終業式		
	21	2学期終業式	21	2学期終業式				
1	9	3学期始業式	7	3学期始業式	8	第3学期始業式		
			15	3年進路懇談会(~17日)	15	新入生保護者説明会		
					18	高等部スノーシュー教室		
2	7	初等教育研究会①	4	3年3学期定期テスト(~5日)	1	小学部そり教室		
	8	初等教育研究会②	7	1年「東京班別学習」(~8日)	4	高等部体験入学		
	14	第4回父母教師会実行委員会	12	公立特色化選抜日	5	中学部体験入学		
	20	新1年生保護者入学説明会	15	父母教師会実行委員会	6	小学部体験入学		
			18	1, 2年3学期定期テスト(~19日)	8	中学部スキーそり教室		
			26	同窓会入会式	28	小学部6送会, 中学部3送会, 高等部3送会		
3	7	6年生を送る会	1	第71回卒業証書授与式	18	卒業式		
	20	3学期終業式	5	2年「台湾の『旅』」(~8日)	19	第3学期終業式		
	22	第72回卒業証書授与式	6	公立入試学力検査(~7日)	25	離任式		
	26	離任式	18	3学期終業式				

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	6	着任式, 1学期始業式, 入学式	5	着任式, 始業式	6	1学期始業式
	16	全校仲良しの会	6	入学式, 1年PTA入会式	9	入園式
	18	学習参観日	9	情報モラル講演会	23	こんにちはの会
	26	校園合同避難訓練	11	生徒会入会式	25	交通安全教室
			12	2・3年PTA	25	個別懇談会(～27日)
5			16	PTA役員全体会・評議員会①		
			20	オープンスクール, PTA・後援会総会		
			20	部活動保護者会長会		
			26	校園合同避難訓練		
	19	研究会事前打合せ	8	生徒会計画総会, クラスマッチ	26	合同避難訓練
30	教育研究協議会・オープンスクール	11	教育研究協議会事前検討会	30	校園研究協議会	
31	北京師範大学南奥実験学校との研修交流	30	教育研究協議会			
6			31	中国・北京師範大学南奥実験学校来訪団授業・交流会		
	4	春期教育実習(～15日)	4	春期教育実習(～6/15)	4	春季教育実習(～15日)
	18	学習参観日(心の教育)	5	郡市各種大会(～6/6)	5	悠久山遠足
	19	初任者研修①	8	郡市水泳大会	19	プール開き
	21	4年サマースクール(～22日)	19	初任者研修授業公開(道徳, 数学)	23	家族参加日(土曜参観)
26	1～3年わくわく発見遠足	22	親子で聞く講演会(武田美保様)	28	入門教育実習	
7	26	栖吉川フェスティバル				
	2	6年三者面談(～4日)	4	中越各種大会(～7/5)	18	1学期終業式
	14	オープンスクール・学校説明会・学習参観日	9	入門教育実習		
	20	児童引き渡し訓練	10	3年税理士による租税教室		
	27	家庭訪問(～31日)	13	オープンスクール・進路説明会・地区懇談会		
8			20	成果を語る会		
	8	親善水泳大会(4～6年)	21	中越地区吹奏楽コンクール		
	23	5・6年立山自然教室(～25日)	21	県総体(～7/22)		
			24	保護者面談(～7/27)		
			1	県吹奏楽コンクール	24	2学期始業式
9			20	抱負を語る会		
			25	学校説明会		
	1	校園大運動会(校園合同)	2	校園大運動会・入門教育実習	2	校園合同運動会
	3	観察参加実習(～7日)	3	観察・参加実習(～9/7)	14	交通安全教室
	13	市親善陸上大会(6年)	6	初任者研修授業公開(美術)	21	入門教育実習, 園内探検
19	避難訓練②	15	西関東吹奏楽コンクール	22	校園インディアカ大会(PTA)	
25	初任者研修②	18	初任者研修授業公開(音楽)	25	入園選考説明会	
28	マラソン記録会	19	運営指導委員会①	26	南中生徒職場体験(～28日)	
10			27	1年生新潟大学訪問		
	5	1学期終業式	3	郡市新人各種大会(～10/4)	2	探検遠足
	9	2学期始業式	12	北信越府連長岡大会	15・16	入園選考
	15	新・転(編)入学選考検査願書受付開始	18	中間検討会(授業研究)開始	18	入門教育実習
	22	秋期教育実習(～11/2)	18	入門教育実習	22	秋期教育実習(～11月2日)
11			22	秋期教育実習(～11/2)	23	避難訓練
			27	音楽発表会		
			31	中学校評議員会・校園合同評議員会		
	7	市親善音楽会(6年)	5	「いのち」校外学習・地層巡検(1年)	5	個別懇談(～8日)
	16	新・転(編)入学選考検査願書受付締切	9	全校「いのち」の日パネルディスカッション	15	ここにこ子育てハッピー講座①
17	校内音楽会	12	オープンスクール・進路説明会	17	ざくひんてん	
27	個別懇談(～29日)	14	生徒会立会演説会・投票日	27	避難訓練	
12			26	生徒会新役員認証式	29	県新採用研修(～30日)
			27	生徒会引継総会・クラスマッチ		
			29	2年「いのち」校外学習		
	1	新・転(編)入学選考検査	2	ロボコン関東甲信越大会出場	4	保育自由参観, 学級懇談会(～6日)
	4	新・転(編)入学選考検査結果発表	6	2年「いのち」校外学習	18	家族参加日(もちつき)
20	仲よしフェスティバル	8	平成31年度入学者選考検査	19	2学期終業式	
1			11	三者面談・保護者面談(～12/14)		
			15	入学者選考検査発表		
			21	成果を語る会		
	9	書き初め大会	8	抱負を語る会	9	3学期始業式
	10	新・転(編)入学選考二次募集願書受付開始	11	校園合同避難訓練	10	かるた大会
11	校園合同避難訓練②	17	学校保健委員会	11	合同避難訓練	
14	学習参観日	22	3年三者面談(～1/25)			
24	高学年スキー教室①	24	1年研修旅行(～1/25)			
28	3・4年スキー教室①	31	運営指導委員会②			
30	高学年スキー教室②					
31	1・2年そり遠足					
2						
	3	新・転(編)入学選考二次募集検査	2	新入生体験入学・保護者説明会	1	豆まき会
	4	新・転(編)入学選考二次募集検査結果発表	14	3年生を送る会	5	そり遠足
	5	3・4年スキー教室②	15	部活動保護者会長会, 評議員会②, PTA懇親会	7	ここにこ子育てハッピー講座②
	17	一日入学	18	学校関係者評価委員会	15	一日入園
26	学習参観(1～3年)	19	2年生修学旅行(～2/22 沖縄)	19	保育自由参観, 学級懇談会(～21日)	
27	学習参観(4・5年)	28	同窓会入会式			
28	学習参観(5・6年)					
	ありがとう仲良しの会					
3						
	18	2学期終業式	4	第71回卒業証書授与式	5	ありがとうの会
	19	119回卒業証書授与式	6	公立高校一般学力検査(～3/7)	18	3学期終業式
			8	1・2学年PTA	19	保育証書授与式
			15	終業式		
		26	離任式			

2. 特色ある教育活動

2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要（2018年度）

No	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標
1	フレンドシップ実習	1, 2 年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1)地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2)教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1)教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2)教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1)学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2)参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3)その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1)学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2)専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	佐渡実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成25年度	(1)佐渡市立両津吉井小学校、河崎小学校及び同学区の久知八幡宮例祭の中で、子どもの支援にあたり、地域の人たちとの協働して祭りに参加する。 (2)参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3)その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1)学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2)専門教育を受けるための準備段階を形成する。 (3)地域と密着した学校教育の在り方を理解し、地域住民との交流を深める。
4	観察・参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 (現在の体制による実施開始年度)	(1)附属学校における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2)参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3)3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1)学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2)3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
5	教育実習 (主専攻、副専攻)	3, 4 年次生	教育実習委員会		(1)教育課程の理解、(2)各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3)学級経営の理解、(4)生徒指導の理解、(5)幼児・児童・生徒の理解、(6)実践研究の方法の理解、(7)その他。	(1)教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2)実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3)研究課題を発見させ追求させる。
6	研究教育実習	3, 4 年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1)単元の指導力、研究力量を形成する。 (2)教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
7	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3, 4 年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
8	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。	
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。	
10	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小中学校において、教育活動の支援を行う。	

実施時期、 期間	関係機関	募集 定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
通年	新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課、学童保育施設、NPO法人星空ファクトリー	50名	39名	「教育実践体験研究Ⅰ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)「教員養成学部フレンドシップ事業」(文部省(当時)、平成9年度開始)に連動する授業科目として設定(「教育実践体験研究」)。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2)平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	100名	123名	「教育実践体験研究Ⅱ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2)平成11～14年度においては、既存の授業科目(教育実践研究関連科目)により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
通年(実習は9月集中)	佐渡市立河崎小学校、佐渡市立両津吉井小学校、NPO法人佐渡芸能伝承機構	10名	12名	「教育実践体験研究Ⅳ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)平成25年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環として実施。 (2)新潟県の地域特性を考慮し、離島における実習として実施。
9月、 5日間	附属学校(4校)		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計325名	「教育実習事前・事後指導」(2単位、学校教員養成課程においては必修の一環を構成)	(1)教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
春期・秋期、各2週間、総計4週間	附属学校園、協力校園総計(のべ)224校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計(のべ)815名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
通年	附属学校、協力校	特に設定しない	43名	各教科において多様な形で設定。	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」(3年次対象)および「総合教育実習」(4年次対象)を実施。 (2)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
通年	新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校	117校、224人(派遣要請総数)	76校、124名(新潟青陵大学・新潟県立大学・新潟薬科大学・新潟医療福祉大学からの派遣数は含まない)	「教育実践体験研究Ⅲ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)平成17年度より新設。	(1)平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2)平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成(カテゴリー「人材養成」事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」)。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5)平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定(平成17年6月締結)による事業の一環を構成。 (6)平成17年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7)平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。 (8)平成26年度から新潟県立大学からの派遣も開始。 (9)平成29年度から、新潟薬科大学と新潟医療福祉大学からの派遣も開始。 (10)平成30年度から、高等学校への派遣を開始。
通年	見附市教育委員会見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	参加者なし	特に設定しない	7月～9月に実施される補充学習の個別指導、自然教室、水泳指導等に学生を派遣依頼があった。今年度は、応募がなかった。
通年	三条市教育委員会・小中一貫教育推進課、三条市立小中学校	特に設定しない	6校、9名	特に設定しない	三条市立保内小学校、一ノ木戸小学校、嵐南小学校、第一中学校、第三中学校、大崎学園に対して、学習の個別支援補助、休み時間の遊び、放課後子ども教室や陸上練習および「さんじょう学びのマルシェ」での活動等に学生を派遣した。
通年	燕市教育委員会学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定しない	3校、4名	特に設定しない	小学校2校(吉田小池小)と中学校1校(小池中)に対して学習支援(授業補助、特別な支援が必要な児童・生徒の学習の支援)行事やイベントの補助、部活動の補助に派遣した。 また、市教育委員会の事業(小学校4年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室)に1名を派遣した。

2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で22年目を迎えた。主に、教育学部学校教員養成課程1,2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている（本実習は、広く他課程や全学部に向けて開かれているが、学校教員養成課程以外の学生参加はごく僅かである）。

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクール・NPO法人星空ファクトリーなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、グループ体験コース、子どもふれあいスクール体験コース、自然科学体験コースの計3コース（募集人数40名程度）を開設した。1年次学生だけでなく、2年次以降の学生も多く見られるようになった。最終的な認定を必要としない学生（リピーターとして参加している2年次以上の学生）も数名見られるようになった。

平成30年度「フレンドシップ実習」

コース名	担当教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加学生数
① 子どもふれあいスクール体験コース	齋藤暁史	1学期から毎週のように、定期的・継続的に学校を訪問	市教委と連携し放課後や土曜日午前中に学校施設内で子どもと遊び等を通してふれあう	内野小学校 五十嵐小学校 鏡淵小学校 松浜小学校 満日小学校	12名
② グループ体験コース	松井賢二	①個別実習 9月に数回 ②全体実習 8月23日（木）	ひまわりクラブと連携し学生企画の遊びで交流	西内野ひまわりクラブ第1 西内野ひまわりクラブ第2	12名
③ 自然科学体験コース	大庭昌昭	①個別実習 5月～3月までの18回 ②全体実習 11月10日（土）	星空ファクトリーの協力による、子どもたちが行う実験への支援	新潟日報販売店 NIC新大前 デッキ401	15名
全体発表会	松井賢二 齋藤暁史 大庭昌昭 宮蘭 衛	12月18日（火） 16：30～18：10	各コースの活動発表会を学生主体に実施	教育学部 204講義室	39名

2.3 「入門教育実習」——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて20年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）が担当している。平成30年度においては、実習協力校12校3園、学部教員34名の受け入れ・指導体制によって実施した。

2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は146人、受入者は123人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生11～16名、学部教員3～4名、実習校担当教員1～3名によって構成される。なお、平成24年度から、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ体制の強化を図っている。コースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	16名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	11名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	13名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	12名
(D) 幼稚園訪問コース	12名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	11名

上記の体制により、学生は、4月から10月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭等である。

教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、11月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

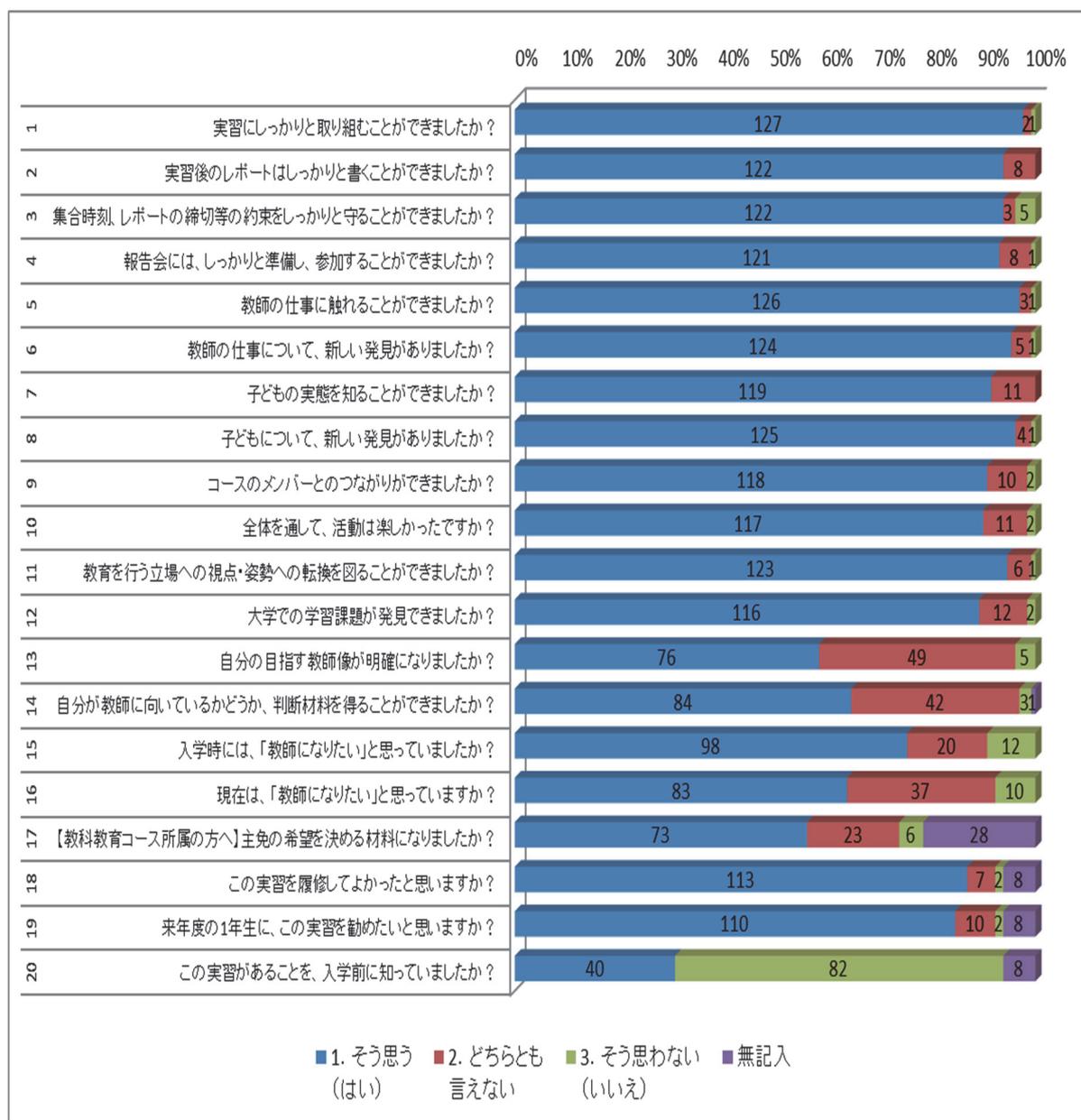


【入門教育実習報告会】

3. 学生の動向

平成30年度における学校教員養成課程の入学者は226人，その内，「入門教育実習」説明会への出席者は146名，履修希望者は142名であった（佐渡実習を含む）。出席者および履修希望者が入学者全体に占める割合を見ると，順に，64.6%（出席率），62.8%（希望率）となる。入学者の半数以上の学生が興味を示していることになる。受入学生数は，履修希望者の95.1%（受入率）にあたる135名であった。

平成30年度においても，報告会の機会を利用して，「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数130名，回収率96.3%）。結果を次に示す（佐渡実習を含む）。



4. おわりに

「入門教育実習」については、『1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第20年次）』（新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編，2019年3月）に報告している。

2.4 「佐渡実習」佐渡で学校と地域を学ぶ ～能楽や鬼太鼓体験を通して～

1 本年度の佐渡実習実施に向けて

本年度で6回目を迎える「教育実践体験研究Ⅳ」（以下、「佐渡実習」）は、これまでの成果に基づき、事前講義、佐渡現地実習、実習のまとめとふりかえり、そして報告会という流れで実施することとした。また、佐渡市地域振興課主催による「あいぽーと佐渡」で2月に実施する報告会にも参加することとした。佐渡現地実習等は森下・齋藤の2名体制で引率した。加えて、事前講義及び現地でのコーディネーターとして、松田祐樹氏（NPO法人佐渡芸能伝承機構理事長）をお願いした。

2 事前講義の概要

(1) 第1回 4月19日 大講義室

「佐渡実習」の説明会と参加者決定を行った。昨年度「佐渡実習」に参加した先輩からの話に熱心に耳を傾ける姿が印象的であった。その甲斐もあり参加希望者数は24名を数えた。事務局で協議の上、定員10名を上回る男子6名・女子6名、計12名の参加が許可された。

(2) 第2回 6月9日 101講義室

佐渡島の〈ひと・もの・こと〉と深く関わっておられる、松田祐樹氏（NPO法人佐渡芸能伝承機構理事長）を講師にお招きして、佐渡の祭りを中心に講義を受けた。佐渡の祭りについての概要及び後継者問題等について、現地実習での多くの活動視点をご示唆いただいた。



(3) 第3回 8月29日 101講義室

出発前の最終確認として、服装や持ち物、支払いにかかわる切符の処理、アレルギーの有無などの確認を行った。また、実習校から事前にいただいた資料などを基に日程の確認を丁寧に行った。さらに、レポート作成についての説明も行った。

3 佐渡現地実習の概要

(1) 1日目 9月5日（水）

河崎小学校班、両津吉井小学校班共に新潟港から佐渡へ出港した。到着後は両津吉井小学校に行き、小田俊裕教頭から事前指導を受けた。そのあと久知八幡宮例大祭の稽古見学をした。



(2) 2日目 9月6日（木）

河崎小学校班、両津吉井小学校班共に鬼太鼓の稽古見学、授業参観を行い、その後5、6年生との交流授業に参加した。

河崎小学校班は交流授業終了後に河崎小学校へ行き、本間英一教頭から事前指導を受けた。

夜は久知八幡宮例大祭の稽古見学をした。



(3) 3日目 9月7日(金)

両津吉井小学校班は、加茂湖周辺の全校遠足の引率を行った。

河崎小学校班は、授業参観を行い、その後5,6年生との交流授業に参加した。

夜はまた久知八幡宮例大祭の稽古見学をした。



(4) 4日目 9月8日(土)

両津吉井小学校班、河崎小学校班共に松田祐樹氏の案内で佐渡島内を見学した。佐渡太鼓体験交流館(たたこう館)での米谷友宏講師による体験プログラムなど、佐渡の魅力存分に味わえた1日となった。



(5) 5日目 9月9日(日)

最終日は久知八幡宮例大祭に参加した。生憎の雨天となったが、たくさんの地域の方々と交流した。

4 事後講義の概要 11月5日 101講義室

学生が提出したレポート及び両津吉井小学校の小田俊裕教頭からいただいた講評を基に「佐渡実習」で学んだことのまとめを行った。また、佐渡実習報告会に向けたプレゼンテーションの原稿作成やパワーポイント作成などの役割分担や報告内容の打合せを行った。

5 佐渡実習報告会 11月29日 大講義室

学生による活動報告があり、普段から話を聞くことで子どもの相談相手になれること、佐渡の子どもたちは祭りや伝統継承の経験を通して協調性を高めていることなど、佐渡実習で学んだことの発表があった。



2.5 研究教育実習

—教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、(旧)教育実践総合センター(平成22年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室)に教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1)多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成30年度においては、家庭科、数学科、理科、音楽科、美術科の各研究室において取組が進められた。その概要を下記に示す。

また、平成30年度においては、12月19日に、「研究教育実習報告会」が開催され、数学科と美術科の実践の成果と課題が、実践者から報告された。

なお、今年度の詳しい取組や報告会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開(XV)』(2019年3月)に記した。

学部担当教員 (所属, 専門分野)	授業科目の概要 (名称, 開講時期, 履修学生数)	研究の概要 (目的, 教科・領域, 対象, 方法等)	授業の概要 (学校・学年, 時期, 時数, 授業者等)
高木 幸子 (大学院教育学研究科 教育実践開発専攻・家 庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次3人, 通年, 6単位)	家庭科における研究教育実習は、小・中学校において家庭科担当教員の指導の基、学生自身が授業構想・準備・実践に責任を持って主体的に取り組み、子供の姿を通して自分の考えた授業のよさと課題を直接的に学ぶことを目的としている。学生は卒業研究として各自の課題に取り組む中で構想した授業の教材や学習方法、支援方法を検討・改善する場として授業実践を行う。 題材名は、「家族や地域の人とのよりよい関わりを考えよう」、「地域の人々との関わりを考えよう」、「世界で一つのオリジナルエプロンを作ろう!」である。	新潟市立早通小学校6年, 11月14日～27日, 3時間 三条市立第一中学校3年, 9月19日～12月27日, 3時間 附属特別支援学校高等部, 11月5日～22日, 5時間
垣水 修 (自然情報講座・幾何 学)	「卒業研究」 (4年次3人, 通年, 6単位)	各教科等の指導の中で観察・実験やレポートの作成などの知識・技能を活用する学習活動を充実させ、さらに教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動を充実させることが求められている。このことから算数・数学の授業内容と関連させて生きる力を育むことができる授業および、教科横断的な授業作りが重要な課題となる。そこで我々は、環境問題の中から水資源問題を題材に選び、この課題に全力を挙げて取り組むことにした。水資源問題は地球環境問題のなかでも、貿易問題、食糧問題など多様な問題が相互に関連しあう重要な領域でもあるからである。	附属新潟小学校6年, 11月21日, 世界で良質な飲み水を確保できる人々の割合 附属新潟中学校1年, 11月26日, バーチャル・ウォーターの概念をもとに、水利用について考える

<p>土佐 幸子 (自然情報講座・理科教育)</p>	<p>該当なし (大学院生1人, 4年次6人, 3年次5人, 2年次5人)</p>	<p>小中学校の理科教員を志望する学生が、発展的な内容の80分の中学校理科授業を開発・実践することにより、教科内容のより深い理解とともに、効果的な指導法を体得することを目的とする。今年度は特に、「主体的・対話的で深い学び」を実現すべく探究と協働に焦点を当て、テーマ選定、実験教材の開発と授業展開の検討を学生同士が切磋琢磨する形でおこなった。授業内容に関しては、年4回の中で、物理、化学、生物、地学の4分野を1回ずつ扱い、中学3年生までの既習事項を基盤として現場では実践が難しい内容を取り上げた。</p>	<p>新潟県立燕中等教育学校第3学年, 5月, 10月, 12月, 2月の土曜講座, 各80分×2学級, 「蛍光の仕組」(化学), 「液状化現象の不思議」(地学), 「ボールが曲がる仕組」(物理), 「骨伝導」(生物)</p>
<p>森下 修次 (芸術環境講座・音楽科教育)</p>	<p>該当なし (4年次8人, 3年次8人)</p>	<p>附属特別支援学校アフタースクールでの器楽演奏。打楽器のジェンベ班と、ジェンベのリズムに乗って踊るダンス班に分かれる。今年度扱った「ヤンカディ・マクル」という曲の特徴は、「ヤンカディ」のゆったりとした日本の盆踊りのようなリズムから、「マクル」の早くて激しいリズムに切り替わるところである。生徒の様子を見て、ジェンベにソロパートを入れたり、歌やパラフォンの演奏も取り入れたり子供たちが挑戦する場も設定した。</p>	<p>附属特別支援学校アフタースクール, 5月24日～1月27日, 16回</p>
<p>佐藤 哲夫 (芸術環境講座・美術科教育)</p>	<p>「卒業研究」 (4年次5人, 通年, 6単位)</p>	<p>本年度の研究教育実習は、5名の4年次生が各自の卒業研究のテーマに関連させながら、お互いに協力しながら新潟大学教育学部附属新潟小学校と附属新潟中学校での授業を計画し実施した。第一の目的は、卒業研究の一環ではあるが、それだけではなく、大学卒業後に教育に携わることも想定し、実際の子どもの姿を通して、自分の考えた授業の有効性や課題を直接的に学ぶことも目的としている。</p>	<p>附属新潟小学校4年, 11月13日～27日, 3時間, 「モダンアーティストになろう」 附属新潟中学校1年, 12月18日, 「立体造形でイメージを形にする」</p>
<p>柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)</p>	<p>該当なし (4年次1人, 3年次7人)</p>	<p>美術教育の本質を社会的に開かれた中で追究したいという問題意識を抱き、卒業研究として論文と授業実践を構想した。題材としては「竹を使って楽器をつくらう」と設定し、地域素材を使用した点に社会的に開かれた設定を意図していると同時に、親や学生との協働の過程に美術表現の魅力を見出そうとしている。</p>	<p>佐潟水鳥・湿地センター アートキャラバン, 9月22日</p>

2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業

— 学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始16年目にあたる平成30年度において、学校からの派遣要請総数は118校、228人であった。新潟大学から派遣されたのは、教育学部3・4年次生のほか、養護教諭特別別科、大学院教育学研究科に在籍する学生・大学院生、総計124名である。今年度の派遣先（学校数、派遣人数）は、小学校（50校、87名）、中学校（21校、31名）、幼稚園（2園、2名）、特別支援学校（2校、3名）、高等学校（1校、1名）総計76校である。学校数、派遣人数については、平成29年度（86校、124名）から、学校数は10校、派遣人数は17名減少した。なお、平成18年度から新潟青陵大学、平成26年度から新潟県立大学、平成29年度から新潟薬科大学と新潟医療福祉大学がこの事業に参加している。



【小学校での授業補助の様子】

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、8月に中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生102名、派遣校教員18名、大学教員5名、新潟市教育委員会1名、総計126名が参加）。12月には、「平成30年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それに基づく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生117名、派遣校教員19名、大学教員6名、新潟市教育委員会1名、総計143名）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成30年度においては、60名の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第16年次）』を作成した。

なお、関連事業として、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、三条市立学校には6校9名、燕市立学校3校と燕市教育委員会の事業には、のべ4名の学生を派遣した。

2.7 教育実習

1. 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次の入門教育実習、2年次の観察・参加実習、3年次の教育実習、4年次の副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるため、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

2. 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

(1) 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、特別支援学校の主・副免学生に1コースを開講し、指導案作成演習と模擬授業を実施している。

(2) 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っており、附属学校において9月に1週間実施している。

(3) 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における実習の機会を提供している。

(4) 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.8 介護等体験

1 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程所属の学生のうち特別支援教育専修を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校教員免許状の取得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

2 ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成30年4月6日（金）

対 象 平成30年度に介護等体験を希望する者（主として2年生）

（1）開会

（2）介護等体験の実施に当たって

全学教職支援センター教職課程支援部門 部門長 宮園 衛教授

（3）介護等体験受入施設、学校における事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

「特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 関原 一成 氏

（4）介護等体験に係る諸連絡

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

○ ガイダンス

月 日 平成30年11月21日（水）

対 象 平成31年度に介護等体験を希望する者（主として1年生）

（1）介護等体験実施の概要について

（2）介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

3 実習状況

平成30年度は、学校教員養成課程210名、その他の課程3名、大学院2名の計215名が表1及び表2のとおり実習を行った。

4 効果と今後の課題

社会福祉施設や特別支援学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等により延べ4名の学生が実習の取消を行い、また、学生の確認・準備不足による期間変更が多数あるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

【表 1】平成 30 年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	52	151	
長岡市	8	12	
三条市	5	6	
柏崎市	3	3	
新発田市	3	4	
加茂市	1	2	
十日町市	3	3	
見附市	2	3	
燕市	2	3	
糸魚川市	2	2	
五泉市	2	3	
上越市	4	4	
佐渡市	3	4	
魚沼市	1	1	
南魚沼市	2	2	
胎内市	2	2	
阿賀野市	1	1	
聖籠町	1	1	
妙高市	1	1	
村上市	4	4	
弥彦村	1	1	
小千谷市	2	2	
合 計	105	215	

(H29 年度に体験済み 1 名、取り消し 4 名)

【表 2】平成 30 年度特別支援学校実習一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	5 月 10 日 ～ 5 月 11 日	23
	2	5 月 15 日 ～ 5 月 16 日	23
	3	5 月 21 日 ～ 5 月 22 日	23
	4	5 月 31 日 ～ 6 月 1 日	26
	5	6 月 20 日 ～ 6 月 21 日	18
	6	7 月 18 日 ～ 7 月 19 日	25
	7	10 月 10 日 ～ 10 月 11 日	26
	8	12 月 5 日 ～ 12 月 6 日	29
	9	1 月 23 日 ～ 1 月 24 日	22
合 計			215

(H29 年度に体験済 1 名 取り消し 4 名)

2.9 インターンシップ

・企業等インターンシップ

【学習社会ネットワーク課程】

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施してきました。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。平成28年度入学生が3年次の本年度が、全体で行う最後のインターンシップとなりました。

1. 平成30年度インターンシップの概要

・実施時期及び期間

平成30年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）、あるいは7月～12月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）。

・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。社会教育主事資格の演習科目。担当教員：雲尾）単位認定インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：北【1】，石山【2】，中央【3】，鳥屋野【2】，東【2】，関屋【2】，
亀田【1】，新津【1】，白根【1】，坂井輪【2】，西【1】，小針青山【1】

新潟市図書館：坂井輪【2（公民館実習と兼ねる）】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【1】

2. 報告書

『平成30年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成31年2月28日）50部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。

また、同報告書のPDF版（1,860KB）も作成しています（授業担当教員が作成・保管）。

【健康スポーツ科学課程】

平成30年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

本課程においては、平成12年より3年次生を対象に課程共通必修科目として「ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習」の科目名でインターンシップを実施している。

ヘルスプロモーションコースにおいては、主に健康増進関連機関において実態観察と事業運営、健康づくり関連の運動指導等の実務に携わり、スポーツ科学コースにおいては、主に体育・スポーツ振興関連諸機関、施設において、事業運営実務、事務、実技指導補助等に業務経験を行う実習を行っている。

今年度の実習先は14か所であった。実習先は下記一覧のとおりである。

実習に赴く前に6回の事前指導と特別講義を行った。特別講義は新潟大学名誉教授の五十嵐 久人氏を講師に招き、平成30年7月26日（木）に実施した。

平成30年10月18日（木）には実習先の担当者をお招きしてヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習報告会を開催し、各実習先での実習の様子、成果を報告した。実習の様子や成果をまとめた平成30年度実習報告書を作成した（平成31年3月）。

〈実習先・人数・期間〉

1) 新潟県スポーツ協会（2名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
2) 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター（3名）	9月11日（火）－	9月22日（土）
3) 新潟市スポーツ振興課（2名）	8月27日（月）－	9月9日（日）
4) 新潟市陸上競技場（2名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
5) 西総合スポーツセンター（2名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
6) 東総合スポーツセンター（2名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
7) 鳥屋野総合体育館（2名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
8) 亀田総合体育館（2名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
9) 下山スポーツセンター（2名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
10) 新潟県障がい者交流センター（2名）	9月11日（火）－	9月23日（日）
	11月13日（火）－	11月25日（日）
11) 燕市吉田トレーニングセンター（ビジョンよしだ）（4名）	8月24日（金）－	9月6日（木）
12) 燕市体育センター（1名）	8月28日（火）－	9月10日（月）
13) メディカルフィットネスクオーレ（3名）	9月11日（火）－	9月24日（月）
14) かえつメディカルフィットネスウォーム（3名）	9月11日（火）－	9月24日（月）

2.10 各課程の特色ある教育活動

【学校教員養成課程（国語教育）】

特色ある活動として、年に2回の学会を開催し、機関誌『新大国語』を刊行している。詳細は下記の通り。

1. 新潟大学教育学部国語国文学会

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会平成30年度夏期研究会

日時： 平成30年7月28日（土）14：00～17：00

場所： 新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容： シンポジウム「魯迅「故郷」の新たな授業づくりの方法と実践」

シンポジスト 鈴木 恵（新潟大学教育学部）

シンポジスト 元井 啓介（新潟大学教育学部附属長岡中学校）

シンポジスト 三村 孝志（新発田市立川東中学校）

シンポジスト 角谷 聰（新潟大学教育学部）

(2) 新潟大学教育学部国語国文学会平成30年度研究大会

日時： 平成31年2月2日（土）14：00～17：15

場所： 新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容： ① 研究発表

「宮澤賢治の西域物—近代中央アジア探検との関り」

新潟大学現代社会文化研究科博士後期課程 劉 東波

「読み取った内容を可視化し、伝え合うことを通して、読みを広げたり深めたりする授業」

新潟大学教育学部附属新潟中学校 坂井 昭彦

② 講演

「小林多喜二『党生活者』から中野重治『甲乙丙丁』へ

—プロ文見直し、蔵原惟人を基点に一」

宮城学院女子大学 伊狩 弘

③ 総会

(3) 機関誌『新大国語』の編集・刊行

①『新大国語』第40号（平成30年3月）を刊行。

②『新大国語』第41号（平成31年3月）を編集。

【学校教員養成課程（理科教育）】

1. 化学実験公開講座の開催（2018年8月8日（水））

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学-21 化学への招待 一日体験化学教室」で、教育学部の化学科教員2名および技官1名、4年次学生4名が「発泡性入浴剤（バブ）を作ってみよう」、「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ（全14テーマ）の講座を企画した。参加した高校生は全8名。

2. 見附市教育委員会の「みつけこども大学」事業での出前授業実施（2018年12月18日）

見附市立見附小学校の6年生児童3クラス総勢90名を対象に、「pHメーターを使ってみよう」と題した出前授業を行った。pHとはなにか、pHと酸性・アルカリ性との関係について解説し、その後、各班に分かれて身のまわりの水溶液のpHを測定して酸性・アルカリ性を判別したり、ブルーベリー溶液やBTB溶液などに酸やアルカリを加えて溶液が変色したときのpHを測定する実験を行った。

3. 特色ある教員養成

(1) 新潟県立燕中等教育学校での高大連携土曜講座実施

正規の授業外に位置付けられている高大連携土曜講座において、班ごとの実験やICT活用を豊富に取り入れた80分の理科授業を学生が行った。実施したのは、中学3年生の2学級（約80名）を対象に、複数の分野における下記の4回の授業である。

- ① 2018年5月19日（土）「蛍光のしくみ」（化学）
- ② 2018年10月6日（土）「液状化現象の不思議」（地学）
- ③ 2018年12月1日（土）「ボールが曲がる仕組み」（物理）
- ④ 2019年2月23日（土）「骨伝導」（生物）

(2) 月刊「理科教室」の読者モニター

理科教員のための月刊誌「理科教室」の学生モニターとして、輪番で毎月感想文を執筆し、投稿した。

【書表現コース・書道分野】

全国でも大変珍しい書文化を中心とする制作及び座学研究を両立させることを目標としてカリキュラムを構成している。この学内研究の成果を定期的に学外に向けて発表している。授業の延長にあるものと、学生が主催者となって行っているものがある。

- 1 2年生による学年展（2018.5）新潟県民会館1階
- 2 東西日本出身者有志の書展（2018.8）新潟県民会館3階
- 3 夏期錬成会（2018.9）新潟大学内
- 4 学園祭におけるパフォーマンス書道（2018.10）新潟大学内
- 5 第51回書道科展（2018.12）新潟県民会館3階
- 6 卒業修了制作書展（2019.2）新潟県民会館3階

特に上記のうち書道科展では、特別企画として会期中展覧会場において

- (1) 石橋犀水・竹内臨川両教授遺墨展
- (2) 佐藤光堂氏講演会および作品解説会

を催した。石橋・竹内両教授は書道科が高田分校に設けられた時代、創世期にご指導いただいた方である。佐藤氏は本学卒業生で、当時のことを詳しくうかがうことが出来た。3日間の会期中、一般市民及び遠方からの卒業生を含む400人あまりの来場者があった。

7 出前講義

以上の展覧会を主とする活動に加え、教員養成に直結した関連行事として学生を引率しての出前講義を行った。国語科教育として文字に関する一般教養と書き方、郷土の文芸に関する総合学習の内容、芸術科書道の指導内容にわたる幅広い教育活動に参与した。伺ったところは、

- (1) 見附市立見附小学校
- (2) 新潟市立五十嵐小学校
- (3) 新潟市立赤塚中学校
- (4) 長岡市立北辰中学校
- (5) 福島県立葵高等学校
- (6) 福島県立白河高等学校
- (7) 長野県立赤穂高等学校
- (8) 新潟明訓高等学校
- (9) 新潟県立六日町高等学校
- (10) 第一高等学校
- (11) 新潟市関屋地区公民館
- (12) 新潟市西川学習館

などをはじめ、各地からの要請に応じている。

他、社会的要請に応じたものとしては大字書を出張先で披露する、いわゆるパフォーマンス書道実演の要望が増えている。

平成29年度入学生から教員養成を更に意識した教育活動に取り組んでいるが、従来の書道科の特色である芸術活動の追究を大切な伝統として捉え、新しい入学生たちも書道科ならではの行事に積極的に参加している。

【音楽科教育専修】

佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で10年目の節目に当たる佐渡市豊岡・小田原神社例大祭（鬼太鼓）に森下ゼミの学生全員が参加した。3月25日に佐渡に入りし、佐渡市定住体験住宅（とよおか住宅）および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。本年も昨年同様第1日曜日の4月1日に祭りが行われ、学生1名が集落の代表として面、装束を着けて鬼を舞った。今まで地元の方が演じていた重要な役割を持つ「ロウソ」を初めて卒業生が演じた。祭りの様子は2018年4月7日新潟日報第11面に掲載された。5月26日～27日、あいぽーと佐渡で催された「日本音楽知覚認知学会」でも地元の方々と学生による鬼太鼓と大獅子が演じられた。



新潟市立内野小学校訪問演奏

今年度も新潟市立内野小学校にお世話になった。今年度のテーマはチャイコフスキー作曲「くるみ割り人形」を合唱と小編成アンサンブル、芝居によってまとめたものであり、場面毎に内野小学校3年生児童にも参加してもらった。



全校向けの訪問演奏は9月19日（水）の朝の時間、内野小学校で継続的に行われている「ミュージック・タイム」の時間に催された。また、昨年同様、ミュージックタイムの前日までに3年生に学生による事前授業が行われた。

附属特別支援学校アフタースクール

今年度も昨年に続き附属特別支援学校中高等部の課外授業としてアフタースクールの授業を行った。演目は昨年と同様に西アフリカ音楽の太鼓演奏と舞であった。本番は11月30日の研究会および1月26日のすなやま祭で披露された。活動内容は今年の太鼓とダンスに、歌唱とバラフォン（木琴）が加えられた。



すなやま祭のエンディングの「WAになっておどろう」を学生がライブ演奏し、好評を博した。

【音楽表現コース】

新潟市西区役所との連携により，大学と地域連携プロジェクト「音届2018～心をつなぐ伝統音楽～」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1，2」並びに「卒業研究」）の中で，マネジメント実習も兼ねて行った。

このプロジェクトは，新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので，2018年度は10名の学生スタッフの発案・運営による，体験講座も合わせて3企画4公演が行われた。これらは，西区と世界を繋げるコンセプトの下に全企画を関連付け，学生たちの手によって運営されて，地域の方々延べ313人にご来場いただいた。

今年度は伝統音楽に焦点を当て，代表的な邦楽器である箏に武藤祥圃氏（本学非常勤講師で新潟県を代表する箏奏者）と，各種国際音楽祭に招かれ，地中海の民俗楽器を演奏する地中海トリオの名手を得て，楽器の構造や可能性などに関する親しみやすいトークやデモンストレーションを交えたプログラムを展開した。また邦楽器の体験講座や「いろはにピアノ！～スタインウェイを弾き比べよう～」（番外編）などの講座も交え，好評のうちに終えた。

詳細は，横坂研究室ホームページ（<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>）に掲載の全体広報誌や各企画のチラシ，プログラム等を参照のこと。

【学校教員養成課程（保健体育）及び健康スポーツ科学課程】

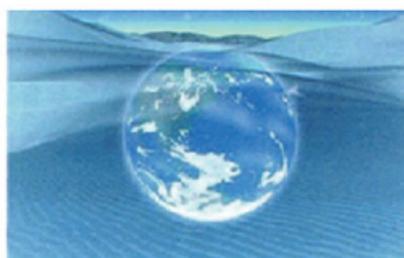
アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports for P.E.A.C.E.～

本プロジェクトは、平成22年度より3年間、新潟大学GPに採択され始まった取り組みであり、今年度で9年目を迎えた。新潟という地域性を活かし、アジアの大学間（韓国：漢陽大学、中国：哈爾濱商業大学、日本：新潟大学）でのスポーツ活動に関わる交流を深めている。

学生は、それぞれの国の文化的背景も含めたスポーツ関連情報の学習はもとより、そうした交流イベントを自ら企画・運営することを通して実践的な学びを深めることを目的に活動を継続している。

PEACEプロジェクトのビジョン

Plan 計画	スポーツイベント・交流計画
Encounter 出会い	準備のための留学生との協力 交流先学生との出会い
Assist 援助	教員の介入によるプランの軌道修正
Carry-out 実行	スポーツイベント・カンファレンスの 実施と運営
Evaluation 評価	プロジェクトが円滑かつねらい通りに 展開されたかを評価



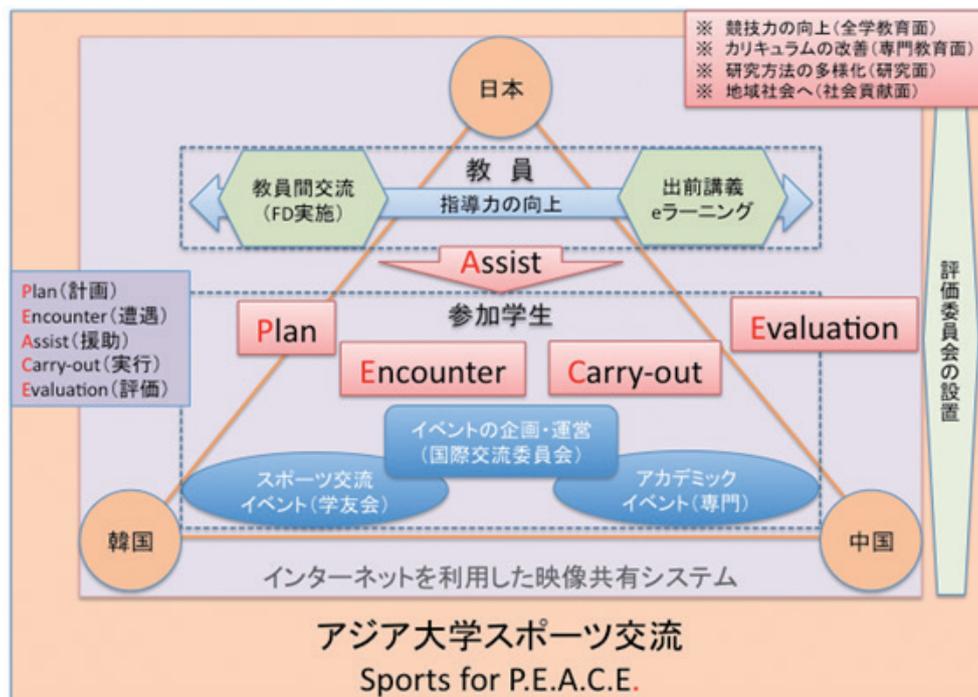
Sports for P.E.A.C.E.

スポーツができること。
それは世界が平和であるということ。

また、競技力向上に関しては、各種目の指導法やフィジカル面、メンタル面などの科学的側面の情報交換も行い、オリンピックやユニバーシアード等が開催された国々から大会運営などの現状や地域社会への波及効果等の学習も目指している。さらに、スポーツという共通の文化を通して、各国の文化や言語の違いといった障害を超えた実践的なコミュニケーションスキルの向上を獲得することも期待している。本取組の概要は次頁図のとおりで、対象学生は主に教育学部保健体育・スポーツ科学講座の学部生・大学院生（専門課程）である。3大学間での交流では、主に「スポーツ交流イベント」と「アカデミックイベント」の2つのイベントを実施している。

本プロジェクトも今回で9年目を迎え、3大学での交流活動が確実に定着し、交流のプラットフォームが完成したと言える。しかしながら、新潟大学教育学部では健康スポーツ科学課程の募集停止を決定し、本活動の中心となるべき学生が少なくなっている。せっかく確立したこのプラットフォームをどのように活用・発展させられるのか大きな課題である。

図：アジア大学スポーツ交流プロジェクトの概要



本年度（平成30年度）の交流について

日 程；平成30年11月28日（水）～12月2日（日）

場 所；漢陽大学ソウルキャンパスオリンピック体育館， エリカキャンパスほか

参加者；ホスト大学；漢陽大（教員6名， 学生多数）

新潟大8名（教員1名， 学生7名）， 哈爾濱商業大学（教員3名， 学生4名）

主要内容；（交流のスケジュール）

- ◎11月28日（水）韓国到着， 代表者ミーティング， ウェルカムパーティ
- ◎11月29日（木）テコンドー体験， フリスビーでの交流
- ◎11月30日（金）バレーボール体験， 博物館見学， 学術交流， 交流会
- ◎12月1日（土）ソウル市内観光
- ◎12月2日（日）帰国



【2018新大なんでもスポーツプロジェクト】

13年目を迎えた「新大なんでもスポーツプロジェクト」は、今年度も保健体育・スポーツ科学講座の大学院生、学部生、そして教員が力を合わせて実施した。今回は、4コースを企画し、地域の人々とスポーツを通じた交流を行った。さらに、地域の方々を対象に学生がスポーツを指導することで、指導者としての資質を高める大変意義のある機会となった。

以下は、今回の4つのプロジェクトの名称と参加者数を示した表である。

コース名称	募集人数	回数	開催日時	参加者人数
A 安全・安心のためのスポーツ環境づくり -スポーツ指導におけるリスクマネジメント-	約30名	1	7/23(月)	39
B 小・中学生のための卓球教室	60名	3	9/22(土) 9/23(日) 9/24(月・祝)	90
C 親子の自然体験教室 -カヌーを使用した自然体験-	16名	2	10/13(土) 10/27(土)	26
D スキースクール	約30名	1	1/12 (土) ~ 1/14 (月)	21

計 176名



2.11 中・高校生等の大学見学

本学部では入試広報の一環として、高等学校からの見学受入れを積極的に行い、本学部の特色や魅力を発信している。

担当教員はカリキュラムや就職状況等を説明した後、専門性を生かした模擬授業を行い、進学希望者への学部理解に努めている。

No	実施日	学校名	参加者	担当教員
1	5月10日	山梨学院高等学校	2年生4名	有川 宏幸（広報委員長）
2	6月29日	長岡大手高等学校	保護者43名	麓 慎一（広報委員）
3	7月4日	栃木県立黒磯高等学校	1年生113名	八坂 剛史（広報委員）
4	7月9日	新潟県立巻高等学校	保護者8名	小林 繁子（広報委員）
5	7月12日	新潟県立小千谷高等学校	1年生50人	田中 咲子（広報委員）
6	7月26日	新潟県立新潟南高等学校	1年生	有川 宏幸（広報委員長） 八坂 剛史（広報委員）
7	7月31日	福島県立只見高等学校	1年生10人	中村 和吉（広報委員）
8	10月17日	新潟県立三条高等学校	保護者15名	高木 幸子（広報委員）
9	10月23日	新潟県立新発田高等学校	保護者9名	高木 幸子（広報委員）
10	10月26日	北越高等学校	1年生23名	小林 繁子（広報委員）

【附属学校等からの見学】

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	6月11日	附属長岡小学校	小学校5年生61名 及び保護者59名	田中 咲子（広報委員）
2	9月27日	附属長岡中学校	中学校1年生120名	有川 宏幸（広報委員長）

3. 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、次のとおり「教職理解特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの高橋 雄一客員教授、田中 賢一特任教授、山際 貴子特任教授、遠藤 英和特任教授、石坂 学特任教授、竹内 公英特任教授、後藤 一雄特任教授である。

1. 目的

講座の受講を通して、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

2. 実施内容

(1) 応用コース

対象者：学部4年生，大学院生，養護教諭特別別科生，新潟大学の卒業生

開講時間：5限（16：25～17：55），場所：204教室

	開催日	講義内容
1	4月12日（木）	応用コースガイダンス 小論文ファイリングの仕方&出願書類の書き方
2	4月19日（木）	教職教養検査問題対策と基礎演習
3	4月26日（木）	新潟県教育委員会・新潟市教育委員会から採用検査の説明
4	5月10日（木）	面接のポイントと実際
5	5月17日（木）	場面指導のポイントと実際
6	5月24日（木）	模擬授業のポイントと実際
7	6月21日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
8	6月28日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
9	7月5日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
10	7月12日（木）	二次検査対策Ⅰ ニーズ別演習
11	7月19日（木）	二次検査対策Ⅱ ニーズ別演習
12	7月26日（木）	二次検査対策Ⅲ ニーズ別演習&私立学校等希望者への指導助言
13	11月1日（木）	学校教育を支える多様な職種と業務
14	11月15日（木）	教壇に立つ心構え（臨採希望者も含む）

(2) 基礎コース

対象者：学部3年生，大学院1年生，新潟大学の卒業生

開講時間：5限（16：25～17：55），場所：204教室

	開催日	講義内容
1	10月4日（木）	特別講座《基礎コース》ガイダンスと教育関連法規 ～教採への対策と準備～
2	10月11日（木）	学習指導要領のポイントと先輩からのアドバイス ～先輩が語る合格必勝法～
3	10月18日（木）	学習指導上の課題とその解決に向けて ～授業の配慮点と学校現場の授業の実際～
4	11月29日（木）	小論文の書き方とポイント（その1） ～学習指導&学力向上を中心に～
5	12月6日（木）	小論文の書き方とポイント（その2） ～生徒指導上の課題と対応を中心に～
6	12月13日（木）	小論文の書き方とポイント（その3） ～豊かな人間関係づくりを中心に～
7	12月20日（木）	小論文の書き方とポイント（その4） ～危機管理を中心に～
8	1月10日（木）	教育行政が期待する教師像 （新潟県教育委員会・新潟市教育委員会）
9	1月17日（木）	小論文の書き方と目指す教師像 ～自分の教育観・指導観を構築する～
10	1月24日（木）	本講座のまとめと次年度《応用コース》に向けて ～自己PR&願書の書き方～

3.2 教員採用試験対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを下記のとおり実施した。

1. 教員採用試験対策支援プログラム（H31.4採用者向け）

(1) 教員採用検査合格者（卒業生）の模擬授業見学

平成30年5月29日（火）、昨年度教員採用検査で合格を果たし、正規教員となった卒業生2人を招き、教員採用検査を想定した模擬授業を行った。参加者は53人。

実際の教員採用検査と同じ進捗で授業を実施した後、質疑応答を行った。参加者からは大きな刺激となった様子がうかがえた。

(2) 教採対策講義（特別支援教育）

平成30年6月27日（水）長澤教授による、教採対策講義「特別支援教育の現状と今後」が行われ、5人の参加があった。

(3) 理科実技試験対策

平成30年5月28日（月）、6月20日（水）、22日（金）、教員採用検査対策支援プログラムとして「理科実技試験対策」を行った。参加者は延べ3人。理科教員から、実技試験を想定した実験器具の操作方法等について具体的なアドバイスを受けた。

(4) 小論文指導

平成30年5月31日（木）、小久保教授指導のもと、「小論文指導」を行った。参加者は29人。参加者は論文を書くためのポイント等についてアドバイスを受けた。

(5) 模擬授業

平成30年7月3日（火）、4日（水）、30日（月）、31日（火）の4日間、実際の教員採用試験を想定した「模擬授業」を行った。参加者は延べ91人。藤林教授・齋藤准教授を中心に、多くの教員の協力を得て実施した。

授業実施者が、実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し、参加者との質疑討論の後、教員等からアドバイスを受けた。

(6) 場面指導

平成30年7月18日（水）、「場面指導」対策講義を行った。参加者は49人。

全学教職支援センター特任教授、教職指導の齋藤准教授が面接官役となり、学生代表者と実際の教員採用試験を想定した場面指導を行った。参加者は、二次試験に向け意欲を高めた。

2 教員採用試験対策支援プログラム（H32.4採用者向け）

(1) 教員採用試験の最新動向と対策（時事通信出版局ガイダンス）

平成30年12月21日（金），時事通信出版局から講師を招き，教員採用試験の最新動向と対策について講演を行った。参加者は76人。

今年度実施された教員採用試験の動向を踏まえた対策や過去問の分析，最新教育時事の傾向と対策について，講演をいただいた。

3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生を対象とした，本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

1 2年次生向けキャリア支援ガイダンス（観察・参加実習事後指導）

平成30年9月10日（月）に，2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生向けに，（1）観察・参加実習を振り返って，（2）3年次の教育実習での心構え，（3）教員という職業についてを中心に，グループワークおよび発表を行った。

参加した学生は，観察・参加実習を振り返り，3年次に行う教育実習に向けて，また自身のキャリア形成について考える良い機会となった。

3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

本学部独自の公務員・一般企業志望学生向けセミナーを下記のとおり開催した。

1 公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー

平成30年11月26日（月），公務員・企業就職を希望する3年次生を対象に就職対策講座を開催した。

講座では，内定者4人による具体的な就活体験談とパネルディスカッション，キャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表では，民間企業就職を果たした内定者2人から，就職する企業を志望した理由，具体的な活動の時期や内容について，公務員就職を果たした内定者2人から，試験勉強の方法，教員採用検査受験・一般企業就活との並行についての具体的な話があった。

キャリアコンサルタントからは，進路・就職に向けてこれから準備することのアドバイスがあり，その後，質疑応答が行われた。

3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

1 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」（「教職理解特別講座応用コース」第13回）

日時：平成30年11月1日（木）5限（16：25～17：55）

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。

2 平成31年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会等に送付し採用を依頼した。

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

1 教採合格ガイダンス（4年次生向け）

平成30年4月25日（水）、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。

ガイダンスは、（1）小学校で正規教員として勤務している卒業生による体験談の発表、（2）齋藤准教授から、教員採用検査出願にあたっての注意点や検討事項などの説明（3）全学教職支援センター所属の特任教授から、自己PRカード記入上の留意点の説明などが行われた。

2 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

平成30年10月12日（金）、来年度の教員採用検査受験予定者を対象にガイダンスを開催した。

ガイダンスでは、（1）全学教職支援センター所属の特任教授から「教職理解特別講座」等の内容・日程についての説明、（2）教育学部卒業生で県内の小・中学校教員として活躍している先輩2人から教員を目指すにあたっての体験談発表、（3）齋藤准教授から教員採用検査や教員という職業への心構えをはじめとした具体的なアドバイスをいただいた。

3.7 教職サポートルーム

教員を志望する学生への支援充実を図るため、教育学部内に「教職サポートルーム」を設置している。

教職を目指す学生が自由に利用でき、指導書や教職関連冊子が閲覧できるほか、電子黒板などを使った模擬授業を行うスペースがあり、教採試験間際は利用度が多い。

また、教職指導担当教員が週2回常駐し、学生からの相談に対応する体制が整っていて、学生が気軽に相談できる環境となっている。



教職サポートルーム (101講義室)



模擬授業スペース・電子黒板ほか



指導書・参考文献・自習スペース



教職関連雑誌・情報検索用パソコン

4. 学部FD

今年度は、学外から株式会社進研アド、新潟県教育庁義務教育課長に講演をお願いし、それらを含めて全4回の学部FDを実施した。

No	実施月日	会場	演題	講師（敬称略）
1	4月12日（木） 13：00-14：30	大会議室	入試結果報告及び分析等による今後の入試検討について	株式会社進研アド
2	5月10日（木） 13：00-14：30	大会議室	新潟県の教員等育成指標について	新潟県教育庁義務教育課長
3	6月29日（金） 16：30-17：30	大会議室	新潟大学教員養成機能強化推進会議の議論について	柴田透 （教育学部長）
4	9月13日（木） 13：00-14：30	大会議室	本年度の科研費申請に係る変更点と research map への対応等について	新潟大学研究企画室 URA

5. 地域貢献

5.1 平成30年度中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」

1. 平成30年度中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」（以下「中堅研」と称する）は、平成30年度で15年目を迎えた。

(1) 日程

平成30年度の「中堅研」の活動日程は下表のとおりである。

日 程	研 修 内 容	場 所 等
6月28日	センター・学部の事前打合せ会	教育学部
7月25日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月6日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月21日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～12月	代表者授業研究会等	受講者の学校
10月～12月	「研修のまとめ」	センター・学部

6月の事前打合せ会で、新潟市立総合教育センター（新潟市教育委員会を含む）指導主事と教育学部担当教員とが一堂に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、3日間に渡って実施され、各受講者の授

業力の課題の検討、授業改善計画の検討、学習指導案の検討、模擬授業等に取り組んだ。これらを踏まえて、9月以降に、グループごとの代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、10月から12月までの期間に、グループごとに「研修のまとめ」を実施した。

(2) 受講者・指導者・グループ編制

教科ごとの受講者数、グループ数、指導者数等は、以下のとおりである。

教科・領域等	受講者数	グループ数	指導主事数	大学教員数
国 語	6	3	3	3
社 会	5	2	2	2
算数・数学	14	5	5	5
理 科	2	1	1	1
音 楽	1	1	1	1
図画工作・美術	1	1	1	1
生活・総合	3	1	1	1
体育・保健体育	3	1	1	4
家庭・技術家庭	3	1	1	3
外国語	1	1	1	1
特別支援教育	4	1	1	1
合 計	43	18	18	23

2. 学部「養成」と現職教員「研修」の連携等

教育学部での「養成」と現職教員の「研修」との連携がある。学部生や大学院生が代表者授業等に参加し、共に授業について学ぶ機会としても位置付けられてきている。平成30年度は、学部・院生がこれらの授業研究に延べ137名参加した。

5.2 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・新潟県教育委員会との連携推進協議会

平成23年4月に締結した連携協定にもとづき、平成31年2月13日、新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会を開催した。

新潟大学教育学部が抱える当面の課題への取り組み状況、教員採用の状況と見通し等について率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・新潟市教育委員会との教育懇談会

平成30年10月9日、新潟市教育委員会と新潟大学教育学部との教育懇談会を開催した。

新潟大学教育学部が抱える当面の課題への取り組み状況、教員採用の状況と見通し等について率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

・見附市教育委員会との連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、見附市内の全ての小・中・特別支援学校13校へ出前授業「みつけこども大学」として講師を13名派遣した。

・三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、市内の小・中学校6校へ「学習支援ボランティア」を9名派遣した。

また、平成30年10月10日、三条市教育委員会と9回目となる連携推進協議会を開催し、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

・燕市教育委員会との連携事業

平成23年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習ボランティア」の募集を行い、市内の小中学校2校及び中学校1校に対して、学習支援等として4名を派遣した。

また、市教育委員会の事業（小学校4年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室）に1名を派遣した。

5.3 委員等就任状況

《主な委員就任状況》

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会及び特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『指導改善研修に係る審査検討委員会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『新潟県立近代美術館協議会委員』
- 『県立歴史博物館評価委員』
- 『新潟県労働委員会公益委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『外来生物対策検討委員会委員』
- 『新潟県教科用図書選定審議会委員』
- 『「新潟県いじめ等防止のための資料集」作成委員会委員』
- 『新潟県いじめ防止対策等に関する委員会委員』
- 『いじめ対策等の在り方検討会議委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市教育ビジョン推進委員会委員』
- 『新潟市就学支援委員会委員』
- 『新潟市環境審議会委員』
- 『新潟市景観審議会委員』
- 『新潟市文化創造推進委員会委員』
- 『新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会委員』
- 『新潟市自殺予防対策協議会委員』
- 『新潟市教職員育成協議会委員』
- 『教育委員会表彰選考委員会委員』
- 『新潟市奨学生等選考委員会委員』
- 『いがた市民大学運営委員』

『新潟市都市計画審議委員』

『新潟市教職員育成協議会委員』

『佐潟周辺自然環境保全計画係蹄検討会議委員』

新潟県小学校図書館協議会

『読書感想文審査委員長』

長岡市

『スポーツ施設指定管理者選定委員会委員』

燕市

『燕市障がい者自立支援協議会療育支援専門部会委員』

佐渡市

『佐渡市いじめ問題調査委員会委員問題調査委員会委員』

佐渡市ジオパーク推進協議会

『推進協議会委員、運営委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

見附市教育委員会

『学校評価アドバイザー』

国土交通省国土地理院

『平成30年度治水地形分類図の更新（北陸地区）治水地形判定委員会委員』

国土交通省北陸地方整備局

『河川水辺の国際調査アドバイザー』

上越教育大学

『上越教育大学CST養成事業実施委員会委員』

公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団

『理事』

西日本高速道路株式会社

『新名神高速道路大阪府自然環境保全検討委員会委員』

公益財団法人リバーフロント研究所

『河川・海岸環境等検討委員会委員』

青森県教育委員会

『青森県内の貝塚遺跡群重点調査委員会委員』

全国GIS技術研究会

『「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」委員』

地震予知総合研究振興会

『津波の地質痕跡評価ワーキンググループ委員』

6. 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

2018年9月20日から26日まで北京師範大学珠海校および北京師範大学附属南澳実験学校、北京師範大学付属惠州実験校と交流活動を行った。

スケジュールは以下のとおりである。20日13時に新潟空港に集合し、成田空港経由で広州に向け出発。広州には21時に到着し、バスで珠海市にある北京師範大学珠海校に向かった。到着は12時を回っていたのでその日はそのままホテルで休むことになった。翌21日は新潟大学と北京師範大学の学生交流会を行った。参加学生は新潟大学と北京師範大学合わせて100名近くになり、大変意義深い交流活動となった。22日は中山市にある孫文記念館を見学した。23日惠州実験学校に移動し、惠州市西湖を見学した。24日午前中北京師範大学付属惠州実験学校と授業交流会を行った。惠州実験学校はこの日を市内研究会に指定したため、200人を超える市内学校の教員が集まり、盛大に研究会が行われた。午後広州市に移動した。25日は1日北京師範大学南澳実験小学校交流授業研究会、26日日広州ゴルフホテルを出発し広州空港から帰国した。

交流内容は以下のとおりである。新潟大学と北京師範大学大学院学生の交流会について。新潟大学側からは日本の伝統文化を報告した。報告内容はパワーポイントを準備し行われた。報告時間は30分である。北京師範大学側からは学生の用意した中国事情についての報告がなされた。新潟大学の報告は、中国側からかなりの関心が寄せられ、大きな拍手をえた。参加者の中にはぜひ新潟大学に留学したいとの声も聞かれた。総体としては大変有意義な研究交流であり、今回初めて参加した教職大学院生からは来年度は報告したいなどの意見も聞かれた。

授業交流については2つのグループを作り、日本の遊びの紹介と音楽の授業を北京師範大学付属惠州実験学校および北京師範大学附属南澳実験学校で展開した。両校とも子供たちの授業への参加態度は大変良く、両校の授業とも多くの教員が参加して大変盛況であった。特にグループワークを中心とした授業の展開中子供たちの積極的な取り組みがなされていることに、「いい学習できた」との感想が聞かれた。また音楽の授業を指導した学生からは中国の子供の積極性をみとることができたという感想が聞かれた。

惠州実験学校では授業終了後の検討会では付属惠州学校以外の教師の参加者を多数得て、参加者が持っている授業論や教育論、授業論など幅広い意見が出された。特に音楽の授業は大変高い評価を得た。

南澳実験学校の授業後、多くの教員が参加した交流会が行なわれた。お互い意見交換をした教員同士の交流会であったため、子供や文化・教育に関する忌憚のない意見が出され、国境を越えた教育交流がなされた。

6.2 学術交流（研究者派遣）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	天野 達郎	アメリカ	Experimental Biology 2018参加	2018/4/21	2018/4/27	共同研究
准教授	平尾 篤利	スペイン	ISEM 2018での発表および参加Conference on Electro Physical and Chemical Machinig	2018/4/21	2018/4/29	科研費(若手B)
准教授	石垣 健二	マレーシア	ISER - 369th International Conference on Education and Social Scienceへの出席および研究発表	2018/4/30	2018/5/7	基幹的経費
准教授	阿部 好貴	中国	【参考】学会参加、研究打ち合わせのため	2018/5/6	2018/5/13	基幹的経費
准教授	阿部 好貴	中国	学会参加、研究打ち合わせのため	2018/5/6	2018/5/13	科研費(基盤C)
准教授	足立 幸子	タイ	2018年アジア・リテラシー大会(2018 Asian Literacy Conference)、第134回全国大学国語教育学会	2018/5/23	2018/5/27	先方負担
講師	鈴木 愛美	オーストリア	声楽の発声法・音楽表現の研鑽、歌唱法の教育方法の研究	2018/5/24	2018/6/4	基幹的経費
教授	佐藤 亮一	スペイン、ドイツ	国際会議AT-RASC2018およびEUSAR2018に出席するため。	2018/5/25	2018/6/9	科研費(基盤C)
教授	長谷川 敬三	イタリア	研究会「複素幾何学とリー群」に参加および研究打ち合わせ	2018/6/9	2018/6/17	科研費(基盤C)
准教授	金子 淳嗣	中国	平成30年度新潟大学教職大学院訪中事業打合せ	2018/6/17	2018/6/23	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
准教授	雲尾 周	中国	国際共同教育研究会および国際プログラムに係る研究打合せ	2018/6/17	2018/6/20	科研費(基盤C)分担 代表:相庭和彦
特任教授	川端 弘実	中国	平成30年度新潟大学教職大学院訪中事業打ち合わせのため	2018/6/18	2018/6/23	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
教授	相庭 和彦	中国	「国際共同研究会」および国際プログラムのための打ち合わせ	2018/6/18	2018/6/23	研究助成(内田エネルギー財団)
教授	牛山 幸彦	アイルランド	ISEK 2018 Congress 出席・共同研究資料収集のため	2018/6/28	2018/7/4	共同研究
准教授	志賀 隆	モンゴル	モンゴル国の植物相調査	2018/7/13	2018/8/1	先方負担
准教授	中島 伸子	オーストラリア	25th biennial meeting of the international society for the study of behavioural developmentに参加	2018/7/14	2018/7/18	科研費(基盤C)
准教授	足立 幸子	アメリカ	国際リテラシー学会2018年年次大会への参加	2018/7/18	2018/7/25	科研費(基盤C)
教授	佐藤 亮一	バレンシア	igarss2018に参加し、研究成果を発表するため。	2018/7/24	2018/7/29	科研費(基盤C)
准教授	岡田 祥平	イタリア	2018年日本語教育国際研究大会(2018ICJLE)に出席し、パネル発表を行うため	2018/7/31	2018/8/6	科研費(基盤C)

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	高清水 康博	ロシア	JKASP2018参加および試料分析	2018/8/19	2018/8/30	科研費(基盤B)分担 代表:谷岡勇市郎
教授	牛山 幸彦	中国	2018日本・中国・韓国大学生卓球交流戦のため	2018/8/27	2018/8/31	先方負担
准教授	石垣 健二	ノルウェー	国際スポーツ哲学会第46回大会での研究発表および同大学での資料収集	2018/9/2	2018/9/10	科研費(基盤C)
准教授	橋本 学	モンゴル	内モンゴルシリントでのアートプロジェクトの実践	2018/9/3	2018/9/8	基幹的経費
教授	丹治 嘉彦	中国(モンゴル)	シリントにて、ワークショップの実践	2018/9/3	2018/9/8	基幹的経費
教授	佐藤 哲夫	中国(モンゴル)	内モンゴルシリント(錫林浩特)でのアートプロジェクトの実施	2018/9/3	2018/9/8	基幹的経費
准教授	志賀 隆	タイ	オモダカ属植物の野外における生育調査、栽培株および標本調査	2018/9/6	2018/9/13	基幹的経費
教授	鈴木 賢治	ベルギー	第10回残留応力に関する欧州会議	2018/9/8	2018/9/16	科研費(基盤C)
教授	小林 日出至郎	ギリシャ	ホメロスの運動文化に関する研究資料調査	2018/9/12	2018/9/21	科研費(基盤C)
教授	堀 竜一	ロシア	第13回国際芥川龍之介学会ロシア大会参加及び研究発表のため	2018/9/18	2018/9/25	基幹的経費
教授	向山 恭一	中国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2018/9/20	2018/9/24	基幹的経費
教授	伊野 義博	中国	北京師範大学附属南奥実験学校との国際交流事業	2018/9/20	2018/9/21	基幹的経費
准教授	金子 淳嗣	中国	新潟大学国際交流事業	2018/9/20	2018/9/26	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
准教授	中島 伸子	中国	国際交流事業プログラムの評価調査	2018/9/20	2018/9/24	科研費(基盤C)分担 代表:相庭和彦
教授	相庭 和彦	中国	国際交流事業プログラムの評価調査	2018/9/20	2018/9/26	科研費(基盤C)
准教授	雲尾 周	中国	国際交流事業	2018/9/20	2018/9/26	基幹的経費
特任教授	川端 弘実	中国	新潟大学国際交流事業における大学院生の指導及び引率	2018/9/21	2018/9/26	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
准教授	杉澤 武俊	中国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2018/9/21	2018/9/26	基幹的経費
准教授	兵藤 清一	中国	2018年度新潟大学国際交流事業における大学院生の指導及び引率	2018/9/21	2018/9/26	基幹的経費
講師	檜皮 貴子	オーストリア	第2回世界体操祭情報会議	2018/9/25	2018/10/1	先方負担

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	大庭 昌昭	韓国	2018 KNSU International Conference and Asia-Pacific Conference on Coaching Science への参加	2018/10/23	2018/10/26	科研費(基盤C)
教授	宮 藺 衛	大韓民国	科学研究費補助金 基盤研究(C) の打ち合わせのため	2018/10/27	2018/10/30	科研費(基盤C)
教授	相庭 和彦	大韓民国	異文化コミュニケーションの共同研究体制の打ち合わせ	2018/10/27	2018/10/30	基幹的経費
特任教授	川 端 弘実	韓国	異文化間コミュニケーションの共同研究体制打合せ	2018/10/27	2018/10/30	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
教授	麓 慎 一	中国	シンポジウムでの発表	2018/11/2	2018/11/5	基幹的経費
教授	佐藤 哲夫	韓国	光州ビエンナーレの調査	2018/11/6	2018/11/9	学長裁量研究プロジェクト代表:寺尾仁
教授	麓 慎 一	イギリス	科学研究費による研究遂行のための史料調査	2018/11/11	2018/11/17	科研費(挑戦的萌芽)
特任教授	川 端 弘実	中国	惠州附属学校と新潟との公開(通信)授業による交流	2018/11/18	2018/11/22	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
名誉教授	小林 昭三	中国	台湾・台北と花蓮で博物館・資料館・図書館・東華大学訪問と国際会議	2018/11/21	2018/12/4	科研費(挑戦的萌芽)
准教授	足立 幸子	Indian Wells	リテラシー研究学会(Literacy Research Association) 第68回年次大会への参加	2018/11/27	2018/12/3	科研費(基盤C)
准教授	田中 咲子	タイ	「環東アジア地域における大規模芸術祭の複合的評価」のための調査(バンコク・アート・ビエンナーレ2018の企画・運営の聞き取りおよび視察 タイの高等教育機関における美術教育、他)	2018/11/28	2018/12/4	学長裁量研究プロジェクト代表:寺尾仁
准教授	大庭 昌昭	韓国	アジア大学スポーツ交流プロジェクトへの参加	2018/11/28	2018/12/2	基幹的経費
教授	麓 慎 一	ロシア	科学研究費(挑戦萌芽研究)による研究遂行のための史料調査	2018/12/1	2018/12/9	科研費(挑戦的萌芽)
教授	相庭 和彦	中国	科研費関連調査 および交流事業の打ち合わせ	2018/12/20	2018/12/23	基幹的経費
准教授	雲 尾 周	中国	基盤研究(C)「グローバル人材の育成に向けた協働型国際交流プログラムの成果検証と評価方法の再検討」に係る聞き取り調査	2018/12/20	2018/12/23	科研費(基盤C)分担代表:相庭和彦
准教授	小林 繁子	ドイツ	史料調査	2018/12/21	2019/1/6	科研費(基盤B)分担代表:甚野尚志
准教授	世取山 洋介	スイス	国連子どもの権利委員会の傍聴・資料収集	2019/1/13	2019/1/19	科研費(基盤C)
教授	清水 研作	ドイツ	Kammersymphonie Berlin(オーケストラ)からの委嘱作品発表のため	2019/1/13	2019/1/23	基幹的経費
教授	丹治 嘉彦	中国	台北市立で開催されている台北ビエンナーレの取材	2019/2/18	2019/2/21	学長裁量研究プロジェクト代表:寺尾仁
教授	佐藤 哲夫	中国	台北ビエンナーレの取材	2019/2/18	2019/2/21	学長裁量研究プロジェクト代表:寺尾仁

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	郷 晃	ベルギー	美術館、博物館、世界遺産等、調査資料収集	2019/2/26	2019/3/8	基幹的経費
准教授	田中 咲子	中国	「環東アジア地域における大規模芸術祭の複合的評価」のための調査(台湾ビエンナーレの視察、資料収集)	2019/3/6	2019/3/9	学長裁量研究プロジェクト 代表:寺尾仁
教授	相庭 和彦	中国、韓国	異文化コミュニケーションネットワーク研究構築のための打ち合わせ会議	2019/3/16	2019/3/20	基幹的経費
教授	宮 蘭 衛	中国、韓国	異文化間コミュニケーションネットワーク研究教育体制構築のための打ち合わせ	2019/3/16	2019/3/20	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
准教授	齋藤 暁史	中国、韓国	異文化間コミュニケーションネットワーク研究教育体制構築のための打ち合わせ	2019/3/16	2019/3/20	基幹的経費
教授	丹治 嘉彦	アイルランド、イギリス	アイルランド、イギリスにおける現代アートの動向と食に関する表現の調査	2019/3/21	2019/3/28	科研費(基盤B)分担 代表:椎原伸博
准教授	中島 伸子	アメリカ	2019Biennial Meeting of Society for research in Child Developmentに出席	2019/3/21	2019/3/25	科研費(基盤C)

7. 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は昨年度に引き続き、研究主題「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」の下、新学習指導要領の方向性を実現しようと、教育課程のカリキュラム・マネジメント研究を推進した。並行して、指定研究授業、拡大部内研究授業やオータム研、GATAKENにおける授業公開、初等教育研究会における授業公開等、教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から1500名を越える参加者が集う2月開催の初等教育研究会において公開している。「学習スキル」、「学級力」、ICTを含む「ツール活用能力の育成」は、附属新潟小学校が全国に先駆けて発信しているもので、各学校においても活用されている。また、「研究紀要第76集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」、研究誌「授業の研究 (N-port)」等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生16名，5月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生72名，9月3日～7日）
- c. 春期教育実習（新潟大学教育学部3・4年生 32名，別科生 2名，新潟医療福祉大学 2名，6月4日～15日）
- d. 秋期教育実習（新潟大学教育学部3年生 30名，別科生 1名，教職大学院 1名，新潟薬科大学 2名 10月22日～11月2日）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

- a. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動
 - ・ペアシステムによる小学校低・中・高学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動
 - ・文化祭（附属アートミュージアム）での特別支援学校生徒作品の展示
 - ・小・中の教職員が合同で職員研修会を実施
 - ・特別支援学校の高等部の生徒による校内環境整備の実施
 - ・特別支援学校の高等部の生徒による研究会における飲み物提供
 - ・三校合同ミサイルに対応する避難訓練の実施

b. 異文化交流活動

- ・平成30年 5月31日（木）～6月2日（土）訪日

新潟大学教育学部が交流協定を結んでいる北京師範大実験小学から3名の教員と12名の児童が来校。授業に参加し、互いの文化交流及び教育研究交流を行った。

④ 食に関する指導等，健康教育に関する取組

- ・特別活動等の時間や給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。また、食に関する教科等横断的な学習単元を開発した。さらに、初等教育研究会において栄養教諭による授業を公開し、研究協議会を開催した。
- ・児童会，給食委員会活動を活用し、給食時間を充実するための取組を行った。

- ・児童会保健委員会と連携して，感染予防等の啓発活動を行った。
- ・体育や特別活動等の時間を活用して，養護教諭の協力を得て学級担任が授業を実施した。
- ・歯科健診の際，養護教諭特別科の実習の取組の一つとして，健診の事後保健指導を行った。
- ・初等教育研究会において，養護教諭による保健の授業を公開し，研究協議会を開催した。

⑤ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県競書大会，新潟県書初大会，新大全国書初大会など各種大会入賞多数
- ・新潟県課題図書読書感想文コンクール入賞者多数
- ・新潟市児童・生徒科学研究発表会発表者多数
- ・新潟市小・中学校理科作品展優秀賞受賞 他入賞者多数
- ・ジュニア展，第14回新潟教育アート展など入賞者多数
- ・新潟市陸上競技記録会入賞者多数
- ・新潟市水泳記録会入賞者多数

⑥ その他

- ・教員免許状更新講習会の実施
- ・当校教員の学部授業への参加
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣
- ・教員研修，視察の受入

(2) 研究会，講演会の開催

① 平成30年度初等教育研究会

- 日時 平成31年2月7日（木）・8日（金）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現 - 2年次研究 -」
- 内容 C C T・公開授業・全体会・シェアリングタイム・フォーラム・講演会
 フォーラム1 「カリキュラム・マネジメント」
 フォーラム2 「協働性」
 フォーラム3 「ツール活用能力」
 講演会Ⅰ 「資質・能力を育成する学習評価の在り方」
 講師 山梨大学 理事・副学長 堀 哲夫
 講演会Ⅱ 「資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント」
 講師 国士舘大学 教授 澤井 陽介
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,300名

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- 『研究紀要 第76集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現』
- 『授業の研究（N-port）』（第200号：年1回発行）
 テーマ「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」
 特集「これからの社会を生きる子どもを育む」

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

実践研究「豊かな対話を求め、確かな学びに向かう生徒を育む授業」の推進

ア 研究の内容

文部科学省「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」の指定事業として、「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善のために、以下の3点を研究課題として設定した。

- ① 「確かな学びを促す3つの重点」を基に資質・能力を育成することを目標とした授業改善の推進
- ② 生徒が身に付けた資質・能力の高まりをより実感できる評価方法の工夫
- ③ 生徒が教科等横断的に自分の生き方に必要な資質・能力として実感できるカリキュラムづくりの推進

研究課題①～③を踏まて、実践地域および拠点校・新潟大学教育学部附属新潟中学校（以下、附属新潟中学校と表記）において取り組む2年次研究の概要は以下の通りである。

①に関して

- ・ 育成する資質・能力の明確化
- ・ 全教科で「確かな学びを促す3つの重点」を基に、資質・能力が高まった生徒とそのため有効な働き掛けを明らかにすること。当校では、これまでの研究成果を踏まえ、次の3つを授業改善の重点として設定した。

- (i) 意味ある文脈での課題設定
- (ii) 対話を促す工夫
- (iii) 学びの再構成を促す工夫

今年度は、「学びの再構成を促す工夫」に重点を置いて研究を推進した。「学びの再構成」とは「生徒が単元・題材で中心となる対象に関する知識及び技能を、様々な事象・現象など（実生活につながる要素となるもの）を通してとらえ直し、相互に関連付け、構造化していくこと」と定義した。「学びの再構成を促す工夫」は、生徒の連続した学びのプロセスに合わせ、「学びの再構成を講じる前」「学びの再構成を講じた時」「学びの再構成を講じた後」の3つに分けて、働き掛けを構想した。

②に関して

- ・ 「学習としての評価」を前提に、生徒のメタ認知を高める評価方法の開発（主としてプログレスカードの活用）

③に関して

- ・ 総合的な学習の時間の工夫
 - 生徒の学びを統合する「生き方・学び方」の時間の設定
 - 体験的活動と学びのメタ認知を往還させる探究活動の設定

④その他－研究の連携強化の工夫

- ・ 全職員が参加する全体研究を軸とした校内研究体制の充実
- ・ 研究者（京都大学大学院・石井英真氏、東洋大学・後藤顕一氏、國學院大學・寺本貴啓氏、新潟大学教職大学院・一柳智紀氏）との連携を図り、先進的な知見からの実践研究の

推進

- ・ 県内大学（新潟大学が主），市内・県内の行政機関，市内・県内の公立中学校との共同研究の推進
- ・ 教育研究発表会，春の公開授業研修を軸に県内，市内に広く研究成果の発信をする研究会の実施
- ・ 実践協議会を年間2回開催し，指導者の方から本事業の指導を受ける。
- ・ 資質・能力の測定のための外部評価（ベネッセコーポレーション・GPS-Academic）の活用

イ 成果と課題

○成果

今年度，「学びの再構成を促す工夫」を主たる手だてとして取り組んだことによって，

- ・ 生徒が新たな視点を基に，知識及び技能を意識的に関連付けながら課題解決を図ることにつながった。
- ・ 生徒アンケートとGPS-Academicで高い数値が測定され，批判的思考力，協働的思考力，創造的思考力が育成されていることがわかった。

○課題

- ・ 知識及び技能に関して，生徒が教科等の学習が直接的に実生活に役立っているという実感をもてていない。今後，私たちが取り組むべきことは，生徒が教科等の学習を通して，責任ある行動をとる力，社会に貢献する態度，自己肯定感，新たな価値を創造する力，対立を克服する力などを実感しながら，これからの社会に必要な資質・能力を身に付ける必要がある。
- ・ 人間性に関して，自分の弱みに目が向き，自己肯定感が低い生徒がいることがわかった。今後は，他者とのかかわりや教科等の授業の枠を越え，生徒が自ら学んだことが社会に貢献したり，集団に必要なものとして受け入れたりするなどの経験によって，生徒の学びに向かう力を涵養する必要がある。

② 学部・教職大学院と連携した活動

a. 学校インターンシップの受け入れ

今年度は実施しなかった。

b. 学部・教職大学院教員および学生との共同研究

新潟大学教職大学院生を4名受け入れた。

c. 研究会等における学部・教職大学院教員との連携の強化

ア，春の授業研究会では，協議会において，12名の教育学部・教職大学院教員からご指導をいただいた。

イ，秋の授業研究会では，協議会において，12名の教育学部・教職大学院教員からご指導をいただいた。

d. 学生によるボランティア

学 習： 今年度は実施しなかった。

保健室：保健室の業務を円滑に進めるために、医学部保健学科より10名の保健室ボランティアが、年間19回、活動した。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

・11月21日（水）に、附属新潟小学校、附属特別支援学校と合同で、不審者対応の訓練を実施した。

(2) 教育実習

① 期日，受入人数

- | | | |
|------------|--------------------|---------------|
| a. 春季教育実習 | 6月4日（月）～6月15日（金） | 23人 |
| b. 2年次観察実習 | 9月3日（月）～9月7日（金） | 46人 |
| c. 秋季教育実習 | 10月22日（月）～11月2日（金） | 22人（うち母校実習2人） |
| d. 1年次入門実習 | 年間3回合計3日間 | 12人 |

② 特色ある実習内容

- a. 春季教育実習，秋季教育実習において，道徳の指導案を作成し，学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- b. 2年次観察実習において，同一敷地内にある附属新潟小学校の授業を参観する機会をもった。

(3) 研究会，講演会等の実施

① 授業研究会（会場：附属新潟中学校）

（研究主題「豊かな対話を求め，確かな学びに向かう生徒を育む授業」）

- a. 5月～7月（各教科・領域で日時を設定）に，国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間の各教科・領域において，授業研究を行い，教育学部・教職大学院教員，行政関係者から，ご指導いただいた。また，公立校・私立校の教員も授業を参観し，協議会に参加した。（合計100人）
- b. 8月29日（水）に，国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間の各教科・領域において，教育学部・教職大学院教員，行政関係者，公立校の教員とともに，中学校教育研究発表会に向けて，授業案の検討を行った。

② 平成30年度中学校教育研究発表会（会場：附属新潟中学校）

（研究主題「豊かな対話を求め，確かな学びに向かう生徒を育む授業」）

- a. 期日 10月19日（金）
- b. 内容 授業公開（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間）
授業協議会
- c. 参会者 教育学部・教職大学院教員，行政関係者（県・市教育委員会指導主事），
県内外教員・学生 他 合計650人

③ その他

- a. 初任者研修授業研修協力校

- ア、期 日 6月13日（火）
- イ、参加者 下越教育事務所管内初任者（中学校15人，特別支援学校4人）
下越教育事務所指導主事，当校職員
- ウ、内 容 授業公開（各教科，道德），協議会，講話
- b. 学校視察の受け入れ
・石川県内灘町立内灘中学校 1名 12月18日

(4) 研究報告等

① 研究誌

- a. 書籍 附属新潟中式「主体的・対話的で深い学び」をデザインする「学びの再構成」
(東信堂)
- b. 公開授業案（10月18日発行）

② 研究成果の発信

- a. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」・実践協議会（7月）
- b. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」・「カリキュラム・マネジメント講演会（講師：東洋大学食環境科学部食環境科学科 教授 後藤 顕一 様）」（7月）
- c. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」，「学習評価講演会（講師：京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井 英真 様）（12月）
- d. OECD Education 2030- Examples of Teaching and Learning Experiences - AAR Cycle, Integrated Studies 実践ビデオ提出（12月）
- e. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」，実践協議会（1月）
- f. 日本カリキュラム学会第10回研修大会—附属新潟中学校の学習評価の取組—，口頭（1月）
- g. OECD・ISN研究大会（Japan Innovative Schools Network supported by OECD），Agencyを育む学びと教え，口頭（2月）
- h. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」，1年次報告書（2月）
- i. 「『主体的』学習の評価を工夫」，日本教育新聞社，実践報告
- j. 「単元の課題と類似したテスト課し達成度測る」，日本教育新聞社，実践報告

7.3 附属特別支援学校

1. 特色ある活動

(1) 連携・交流活動

【新潟地区附属三校等交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：
- ・小学部1，2年生児童と附属新潟小学校低学年複式学級児童（授業交流）
- ・小学部3，4年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級
- ・小学部5，6年生児童と附属新潟小学校高学年複式学級
- ・中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部5，6年生児童と新潟市立新潟小学校特別支援学級児童（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・新潟市内小・中学校への支援会議の参加 26校延べ約80回

【学部・大学院との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ7人
- ・教員免許状更新講習に，管理職のほかにゲストスピーカーとして教諭1人参加
- ・大学院の教員養成実地指導講師として副校長，教諭2人参加
- ・学生ボランティアの登録：登録33人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会8人，特別支援教育研究会48人
すなやま祭51人，学部・学級行事26人

【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月1回程度開催
- ・保護者有志が教育学部学生や院生と連携して運営する放課後活動（アフタースクール）への支援，会場提供：月3回程度実施，研究会，すなやま祭での発表と作品展示

【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会（同窓会）の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。
（8月18日開催。高等部生徒28,卒業生78,卒業生保護者38,旧職員5人，現職員30人参加）
- ・第2回すなやま会の開催。
学校行事（すなやま祭）開催日に併せて設定
（1月26日開催。卒業生72人，卒業生保護者36人参加）

【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ（すなやまの家を会場に提供）
延べ約2,900人利用

(2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【発達障害通級指導教室の開設】

- ・通級指導教室：新潟市内小・中学生34人週1回定期支援
- ・教育相談：不定期は多数
- ・研修支援：小・中・高等学校職員対象の研修，他県（広島，長崎）からの視察・相談の受け入れ

【教育相談・支援活動】

○研究会・研修会講師等

- ・新潟市初任研講師 関原 一成
- ・県立教育センター研修会講師 齋藤 文一, 朝妻 裕祐
- ・県初任者研修講師 清野 健男

(3) 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生10人（5月26日, 8月17日, 9月12日）
- ・教育実習生の受入（春期：23人 秋期：32人）
- ・養護教諭特別別科1日観察参加実習：37人（11月9日）
- ・介護等体験生の受入（年間9回, 合計220人）

【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（6月26日 32人）

【新潟市】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（5月8日 7人）

(4) 学校行事等

【学校行事】

- ・運動会
- ・すなやま祭（学習発表会）
- ・職場実習等（高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定）
- ・修学旅行（中学部3年生：東京方面 高等部3年生：関西方面）
- ・校内宿泊学習（全学部実施「すなやまの家」に宿泊）
- ・親子工作教室（小学部PTA）
- ・親子陶芸体験（中学部PTA）
- ・そり教室（小学部），スキーそり教室（中学部），スノーシュー教室（高等部）
- ・卒業生を送る会（全学部）

【PTA保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校7校PTA懇談会参加
- ・全附属北信越地区研修会長岡大会特別支援学校部会参加

【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

2 研究会等の開催

研究会

- ・第41回特別支援教育研究会（11月30日開催）
研究主題：子供が学びを深める姿をめざした授業づくり（第5年次）
参加者数：551名

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

平成29年度から、文部科学省研究開発指定を受け、新領域「いのち」を中心とした教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発に取り組んでいる。

幼稚園としては、12か年一貫教育における幼児教育について、「心を動かしながら、主体的に環境に働きかけて楽しむ遊び」を目指している。目指す遊びを見取る視点として、「願い」「思考」「対話」「繰り返し」「没頭」の5つの様相と、これらの様相と密接にかかわる心の動きである「感情」を位置づけている。子ども一人一人がそのような遊びに浸っていくためには、教師がその子を人間として理解しようとし、発達や内面をとらえ、支援していくことが何より重要である。多面的で継続的な子供理解を土台に、遊びに向かう子供の思いや願いを丁寧を受け止めて支援を行うことにより、資質・能力をはぐくみ、求める子供の姿の具現を目指している。

② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- a 入門教育実習 (36名)
- b 春期教育実習 (1名)
- c 観察参加実習 (113名)
- d 秋期教育実習 (1名)
- e 他大学の教育実習 (1名)

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。

行事では、「幼小中合同大運動会」や「校園合同避難訓練」を行っている。

- a 幼児と児童の遊びの交流
- b 観客型連携による相互訪問
- c 中学生の保育参観、遊びの紹介
- d 園児の小学1・2年生との交流活動
- e 研究授業・保育の相互参観
- f 授業・保育交流

④ 大学との連携

- a 教職大学院「発達理解の理論と実践」の講師 教諭 長谷川 宏之
- b 中島伸子准教授の授業における保育参観における講師 教諭 長谷川 宏之

⑤ 教育機関への協力

- a 県教育委員会への協力
 - ・ 新潟県幼稚園等新規採用教員研修会会場園 (11月2日間 13名)
 - ・ 新潟県幼稚園初任者研修講師 教諭 小倉 義則
- b 市教育委員会への協力

- ・ 長岡市教育委員会子ども未来部「公立保育園・幼稚園研修会」指導者 教諭 長谷川 宏之
- c 公立学校等への協力
 - ・ 大河津小学校校内研修（3回）指導 副園長 高橋 喜一郎
 - ・ 阪之上小学校校内研修指導 副園長 高橋 喜一郎
- d 北陸福祉保育専門学院生徒への保育公開
 - ・ 子ども未来学科・福祉保育学科 3名対象

⑥ 中国との交流

- a 北京師範大学南奥実験学校訪日団との交流・研修
 - 5月30日 附属長岡校園研究協議会視察
 - 5月31日 附属長岡校園との交流研修
 - ・ 中国の教師2名による保育公開
 - ・ 給食交流
 - ・ 附属長岡校園職員との研修
- b 北京師範大学南奥実験学校等視察
 - 9月20日～24日 教諭 小倉 義則 参加
 - ・ 公開保育, 研修交流

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成30年度教育研究協議会

- a 開催日 平成30年5月30日 幼小中合同教育研究協議会
- b 会場 附属長岡校園各教室・保育室・体育館等
- c 内容 授業公開, 保育公開, 協議会, 教育講演会

〈講演会①〉

講師 文部科学省初等中等教育局 直山木綿子 様
 演題 「外国語教育における主体的・対話的で深い学びとは」

〈講演会②〉

講師 上智大学総合人間科学部 奈須 正裕 様
 演題 「資質・能力を基盤とした学力論と授業づくり」

※ 講演会①②は、同時開催。参加者が選択して聴講。

② 幼稚園教諭・保育士等を対象とした研修会「ミニ講座」

- a 第1回 7月12日（参加者21名）保育参観, 協議会
- b 第2回 8月6日（参加者32名）新潟大学教育学部永吉秀司准教授による造形ワークショップ
- c 第3回 11月9日（参加者39名）保育参観, 協議会

③ 保護者を対象とした子育て講演会「にこにこ子育てハッピー講座」

- a 第1回 11月15日（参加者20名）講師 子育て支援カウンセラー 小柳信子様
- b 第2回 2月7日（参加者22名）講師 子育て支援カウンセラー 小柳信子様

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

平成22年度から7年間、文部科学省研究開発指定を受け、「『社会的な知性』を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発」に取り組んだ。

幼・小・中12年間で五つの「ステージ」に構成し、各教科等と新設教科「社会創造科」に「協働型学習」を位置付けた一貫カリキュラムを開発し、知の循環型教育システムを構築・提案した。

平成29年度から4年間、新たに文部科学省研究開発指定を受けた。研究開発課題は、「知識や情報等を結び付け、多様な「生命」のつながりを発展させたり、「生命」の基盤となる「安全」な社会を実現したりする資質や能力をはぐくむための、新領域『いのち』を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発」である。

主な研究の内容は、次のとおりである。

ア 認知的・社会的・実践的資質・能力をはぐくむために、新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの開発。

イ 新領域「いのち」の学習内容を「生命」とその基盤である「安全」とし、幼小中12年間を貫いた系統的な学習内容の整備。

これらのことを課題として研究を進め、5月30日の教育研究協議会で発表した。また、年間を通して、継続的に授業研究を行いカリキュラム改善につなげた。



1年 道徳科



4年 「いのち」



5年 体育科

② 教育実習生の受け入れと指導

- | | | | | |
|---|--------------------|------------------|---------|---------|
| a | 入門教育実習① サマースクール | (1年生11名) | 6月21日～ | 6月22日) |
| | 入門教育実習② 栖吉川フェスティバル | (1年生12名) | 6月26日) | |
| b | 観察参加実習 | (2年生68名) | 9月 3日～ | 9月 7日) |
| c | 春期教育実習 | (3・4年生及び別科生 25名) | 6月 4日～ | 6月15日) |
| d | 秋期教育実習 | (3・4年生及び別科生 24名) | 10月22日～ | 11月 2日) |

③ 連携理念に基づく教育活動

a 長岡地区3校園による学校行事等の連携

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリックな行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年2回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

また、新潟大学危機管理本部危機管理室から2回にわたって、避難訓練の指導を受けた。

b 学部生による指導補助

4・5・6年児童が体育科の学生2名から8回にわたって体操の指導を受け、成果を12月1日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。

c 5年生の親子大学訪問

6月11日（月）、大学の協力を得て、キャリア教育の一環として実施し、他学部で講義を受けた。（教育学部、理学部、工学部、農学部、災害復興科学研究所）

保護者の参加率（98%）が非常に高く、毎年参加者から好評を得ている。



新潟大学の様々な施設を訪問

④ 大学との連携

- | | | |
|-------------------------|------|--------|
| a 家庭科教育法Bでの講師 | 教諭 | 加藤 美奈子 |
| b 小中学校における集団保健指導の実際での講師 | 養護教諭 | 葦澤 千奈美 |
| c 社会科教育法での講師 | 教諭 | 倉石 智幸 |
| d 免許状更新講習会の指導者・ゲストスピーカー | 副校長 | 主幹教諭 |

⑤ 教育機関への協力

a 文部科学省・県教育委員会等への協力

- ・小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。

（6月：道徳科・算数科 小学校初任者20名、特別支援学校初任者2名

9月：社会科・保健教育 養護教諭初任者19名）

- ・文部科学省 学校安全資料作成のための調査研究事業委員
- ・日本科学技術振興財団 放射線に関する教職員セミナー等委員会
- ・岡山県教育委員会 学校保健安全研修会講師
- ・日本科学技術振興財団 放射線に関する教職員セミナーWG委員
- ・全国学校保健・安全研究大会指導助言者

b 長岡市教育委員会・見附市教育委員会・三条市教育委員会・十日町市教育委員会等への協力

- ・長岡市教育委員会の市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成熟」の事業に協力した。（国語科、算数科、学級活動、「道徳」）
- ・教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、長岡市教育センター主催の研修講座に講師として協力した。（算数科、社会科）
- ・見附市教育委員会主催の出前研修講座の講師として協力した。（外国語活動、道徳科）
- ・三条市教育委員会の小中一貫教育推進委員として協力した。（小中一貫推進委員1名）
- ・十日町市教育センター研修講師講座の講師として協力した。（国語科）

c 公立学校等との連携

○校内研修等指導者として派遣

- ・見附市立見附小学校 (外国語活動1名)
- ・柏崎市立鯨波小学校 (道徳1名)
- ・十日町市川西学校区 (人権, 同和教育1名, 算数科1名)
- ・柏崎市立鯨波小学校 (道徳科1名)
- ・長岡市立宮内小学校 (道徳科1名)
- ・長岡市立越路小学校 (算数科1名)
- ・魚沼市立須原小学校 (国語科1名)

d 北陸福祉保育専門学院生徒への授業公開・協議会

- ・子ども未来学科・福祉保育学科4年生 5名対象 全12学級授業公開
- ・子ども未来学科・福祉保育学科3年生13名対象 国語科2学級授業公開

⑥ 中国との交流

a 北京師範大学南奥実験学校訪日団との交流・研修

○5月30日(水) 附属長岡校園研究協議会視察

○5月31日(木) 附属長岡校園との交流研修

- ・中国の教師による授業公開(音楽科, 体育科)
- ・歓迎交流会
- ・給食交流
- ・附属長岡校園職員との研修交流



北京師範大学南奥実験学校訪日団との交流・研修

b 北京師範大学南奥実験学校, 惠州附属学校等視察

- ・9月20日(木)~24日(月) 教諭1名
- ・中国での授業公開(体育科)
- ・北京師範大学珠海分校での講演



北京師範大学南奥実験学校, 惠州附属学校等視察

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、学級活動や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a 食に関する個別的な対応の取組

- ・食への興味を引き出す「バックン通信」（食育に関する質問箱）の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b 栄養教諭による講話等

- ・毎月1回、中学生への食育講話
- ・毎日の「食育新聞」の発行（小学校・中学校に掲示）
- ・学校ホームページブログでの給食レシピの紹介（毎食）
- ・学級担任への食育資料提供
- ・小学校、幼稚園の給食試食会での保護者への講話
- ・教育実習生（別科生）への講話
- ・食育標語の募集と表彰

(2) 研究会、講演会等の開催

① 平成30年度教育研究協議会事前打合せ

- a 日時 2018年 5月19日（土）
- b 会場 附属長岡小学校
- c テーマ 「新たな世界を創り出す子供をはぐくむ」（第2年次研究）
- d 内容 分科会（研究概要の説明，研究会単元の検討，研究会の日程と役割分担）
- e 参加者 指導者，司会者，研究協力者

② 平成30年度教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a 日時 2018年 5月30日（水）
- b 会場 附属長岡校園（幼稚園，小学校，中学校）
- c テーマ 「新たな世界を創り出す子供をはぐくむ」
－「統合的な学び」の実現を通して－（第2年次研究）
- d 内容 全教科等の授業公開，授業協議会および教育講演会
 - (1) 「統合的な学び」の設計
 - ・各教科等における「求める子供」と「統合的な学び」の設定
 - ・「統合的な学び」を実現する手だての構想
 - (2) 新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発
 - 授業
 - ・「統合的な学び」を実現するための手だて
 - ・新領域「いのち」
 - 講演
 - ・上智大学総合人間科学部教育学科教授 奈須 正裕 氏
演題「資質・能力を基盤とした学力論と授業づくり」
 - ・文部科学省初等中等教育局教育課程科・国際教科外国語教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 直山 木綿子 氏
演題「外国語教育における主体的・対話的で深い学びとは」

e 参加者 県内外の教員，学生，学部教員，県・市町村教育委員会指導主事，当校教員等
約 1200名の参加者

③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校 P T A 連合会主催
北信越地区総会・実践活動協議会 長岡大会

a 日 時 2018年10月11日（木）副校園長会（市内巡検，研修会・協議会等）
10月12日（金）教育活動・授業公開，協議会，全体会・総会等

b 会 場 新潟大学教育学部附属長岡校園（幼稚園，小学校，中学校）

c テーマ 「附属学校園のあるべき姿を考える

～地域教育の発展と地域に生きる附属学校園のありかた～」

d 内 容 保育・授業公開，協議会および全体会・総会，情報交換会・懇親会

e 参加者 約300名 *校長，副校長，教諭，P T A 同心役員等参加

(3) 研究報告等

① 紀要

・『研究紀要 新たな世界を創り出す子供をはぐくむ
－「統合的な学び」の実現を通して－ 第2年次研究』（年1回発行）

② 文部科学省研究開発指定 研究開発実施報告書

・『平成30年度 研究開発実施報告書・第2年次』
研究開発課題

知識や情報等を結び付け，多様な「生命」のつながりを発展させたり，「生命」の基盤となる「安全」な社会を実現したりする資質や能力をはぐくむための，新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発

③ 教員の著書・論文・研究発表等

・小一教育技術 12,2・3月号（小学館）	教諭	畠山 明大
・小二教育技術 12,2・3月号（小学館）	教諭	畠山 明大
・小三教育技術 4,5,7・8,10,1,2・3月号（小学館）	教諭	畠山 明大
・小四教育技術 12,2・3月号（小学館）	教諭	畠山 明大
・小五教育技術 10,2・3月号（小学館）	教諭	畠山 明大
・小六教育技術 10,11,1月号（小学館）	教諭	畠山 明大
・理科の教育7月号（東洋館出版社）	教諭	畠山 明大
・リーダーズ・ライブラリ（ぎょうせい）	教諭	畠山 明大
・小一担任のための学級経営大辞典（明治図書）	教諭	畠山 明大
・小二担任のための学級経営大辞典（明治図書）	教諭	畠山 明大
・社会科の初志をつらぬく会学術誌「考える子ども」1月号	主幹教諭	田中 辰弥

(4) その他

① 危機管理に対する活動

a 大規模災害を想定した引き渡し訓練（5年目）
・緊急時対応マニュアルの修正・配付
・体育館での児童引き渡し訓練の実施

- b 緊急メール配信システムの整備
- c インストラクターによる全学年着衣泳指導
- ② 保護者ボランティアによる学校支援
 - ・読み聞かせ, 本の修繕, 生け花, 花壇整備, 自習, 校外学習, ミシン, 水泳, スキーの9つで, 約200人が登録。
 - 児童の安全安心のために教育活動を支援
- ③ J R長岡駅と連携した電車の交通安全教室の実施
 - ・11月22日(木)「電車のマナー・安全指導」(J R長岡駅職員8名)
- ④ P T A組織の活性化
 - ・校園スポーツ交流会(インディアカ)の開催
- ⑤ 教育環境の整備
 - a 特別教室(理科室, P C室, 家庭科室, 図工室)エアコン設置
 - b 無線W i - F i中継器の増設
 - c 低学年用コート, 体操着かけ棚入れ替え



保護者ボランティア情報交換



インストラクターによる着衣泳



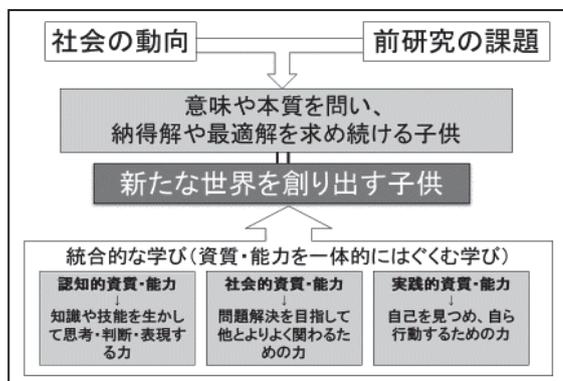
長岡駅職員による電車交通安全教室

7.6 附属長岡中学校

1. 教育研究

(1) 「統合的な学び」の実現と資質・能力のはぐくみ

当校を含む附属長岡校園は現在、文部科学省から研究開発学校の指定を受けて研究を進めている。社会の動向などを踏まえ、物事の意味や本質を問い、納得解や最適解を求め続ける子供（以下「新たな世界を創り出す子供」と呼ぶこととする）の姿を求めたいと考えた。そして、「新たな世界を創り出す子供」に必要な資質・能力を、前研究の成果と課題や先行研究、学習指導要領改訂の方向性を考慮し、大きく3つ（「認知的資質・能力」「社会的資質・能力」「実践的資質・能力」）に分類した。



【研究主題と求める子供】

本年度は、これら3つの資質・能力の具体的内容を、「意味や本質を問うために必要な力」「納得解・最適解を求め続けるために必要な力」という点から検討し、以下の9つの内容とすることにした。

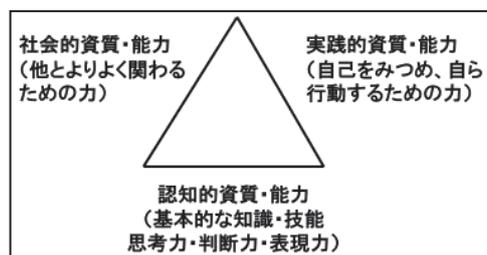
【「新たな世界を創り出す子供」に必要とされる具体的な資質・能力と「自己の資質・能力への自覚」】

【認知的資質・能力】	【社会的資質・能力】	【実践的資質・能力】
「論理的思考力」 情報の正しさを、根拠に基づいて客観的・論理的に評価したり、多様な視点から考えたりする力	「敬意」 周囲の人・もの・ことへの価値を認め、大切にしようとする態度	「粘り強さ」 困難な事にも立ち向かい、最後までやり遂げようとする態度
「先を見通す力」 ある行動や出来事、働きかけの結果を予測したことに基づき、適切な判断をする力	「共感的態度」 人それぞれが多様な考え、価値観をもつことを踏まえ、他者の心情に共感する態度	「探究心」 より詳しく知りたいと思う気持ちや知りたいことや解決したいことを見つけようとする態度
「伝える力」 言葉や記号などを用いて表現方法を工夫し、自らの思いや願い、考えを表し伝える力	「協働する力」 学びを深めたり、目標を達成したりするために、他者と協力する力	「省察的態度」 自分が考えていることや理解の程度、感じていることなどを把握し、それに応じて思考や行動などをよりよい方向に進めようとする態度
「自己の資質・能力への自覚」 学習対象・内容や場面に応じて、どのような資質・能力が必要かを捉えること 自分の現状から、どのような資質・能力をはぐくむべきかを考えること		

「何が分かったか」「何を学んだか」という学習内容からの振り返りだけでなく、「自分にはどんな力が必要か」「何ができるようになったか」という視点で資質・能力を自覚的に捉えることが、資質・能力をより確かにはぐくむことにつながる。そこで、「自己の資質・能力への自覚」を高める手立てを、発達段階に応じて単元に位置付けることにした。

各教科では、資質・能力を一体的にはぐくむ「統合的な学び」の実現を目指す。

右は「統合的な学び」のイメージ図である。それぞれの辺が、一体となって三角形を形作っている。三角形の大きさが子供の学びを示している。どれか一つの辺だけが長くなる学びは「統合的な学び」であるとはいえず、どの辺もバランスよく伸びていくことが望ましい。



【「統合的な学び」のイメージ】

(2) 新領域「いのち」と教科・領域横断型カリキュラム開発

新領域「いのち」では、学習内容を「生命」とその基盤である「安全」とすることにした。「生命」はいかなる時代にあっても尊重されるべきものであり、「安全」は人間が追い求めてきた普遍的な価値があるものである。「生命」とその基盤である「安全」を学習内容とすることにより、どのように時代が変わっても、生きるものの意味や物事の本質を問うために必要な資質・能力をはぐくむことができる考えたためである。

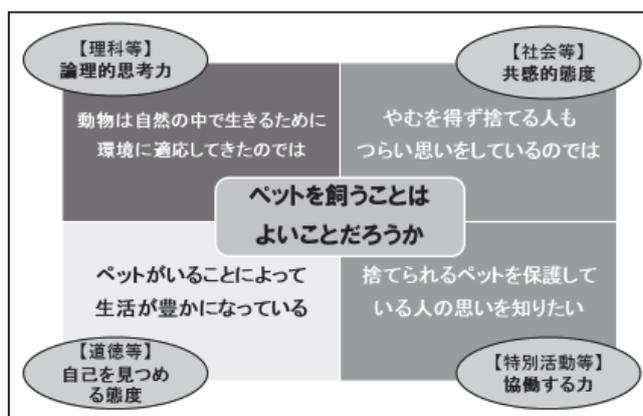
また、「生命」とその基盤である「安全」を学ぶことは、多様な立場や角度から考える必要があり、様々な資質・能力を相互に結び付けるための学習対象としてふさわしいと考えた。

「生命」とその基盤である「安全」は、以下のように定義される。

「生命」	有限性, 固有性, 相互性, 連続性という要素をもつ生物の有り様, 生き方
「安全」	生命を脅かす, 大きなリスクがないこと

各教科で身に付ける資質・能力をより確かで豊かなものにするために、「いのち」では教科・領域を横断した単元開発に取り組むことにした。

「生命」とその基盤である「安全」を学習内容とすることで、子供は様々な教科や領域で身に付けた知識や資質・能力, 見方や考え方を使ったり働かせたりする必要が生じる。例えば, 右のような場合である。



「生命」とその基盤である「安全」をめぐる

問題を考える時、子供はそこに様々な葛藤や対立, 矛盾を見だし, 様々な立場において大切なものは何かという「それぞれの意味」や, 立場を越えた共通点から「問題の本質」を捉えたりすることができる。それにより, 資質・能力をより確かに, 豊かにはぐくむことを目指すのが新領域「いのち」である。

(3) 教育研究協議会の開催

平成30年5月30日(水)に教育研究協議会を開催し, 新領域「いのち」, および各教科で公開授業を行った。合わせて, 直山木綿子様による「外国語教育における主体的・対話的で深い学びとは」, 上智大学の奈須正裕様による「資質・能力を基盤とした学力論と授業づくり」の講演を行った。参加者は, 県内外教員, 学生, 学部教員, 教育委員会指導主事など, 中学校関係だけで334名を数えた。県内外のモデル校の役割を果たしていることを示した。



【研究会での授業の様子】

2 地域のモデル校・教員研修の拠点校

(1) 附属学校教員の講師派遣

長岡市や見附市の教育センター研修講座，公立校の校内研修などに対し，講師派遣を13回行った。

(2) 附属学校の授業公開

中越教育事務所と連携し，公立校の初任者に対して示範授業を行った。さらに，長岡市教育センターの教育講座と連携して授業を公開した。いずれの授業においても，参観者からは，「授業のつくり方や指導技術などについて勉強になった」との声が多数寄せられ，好評であった。

3 大学との連携を図った教員研修・教員養成への協力

(1) 現職教員研修への協力：教員免許更新講習において，大学教員と連携し，本年度の研究である「統合的な学びの実現」を取り上げ，ゲストスピーカーとして教員を派遣した。

(2) 学部授業への協力：当校教員を学部授業に派遣し，授業づくりや研究への視座を現場から示した。

(3) 教育実習生受け入れ：教育学部のみならず，他学部からも実習生を受け入れ，指導を行った（本実習：春期33名，秋期30名，2年次観察・参加実習45名，1年次入門教育実習36名）。

4 特色ある教育活動

(1) 「ひと・もの・こと」と交流し，多様な価値観に触れて視野を広げる旅行体験

◆1年生研修旅行（東京：キャリア教育）

◆2年生研修旅行（沖縄：異文化・平和学習）



(2) 様々な「ひと・もの・こと」と出会い，考えを深める学習

◆英語の授業において留学生を招いて交流を図った。

◆武田美保様（元女子アーティスティックスイミング [シンクロナイズドスイミング] 日本代表選手）をお招きし，親子で講演を聞いた。

◆長岡市国際交流センター「地球広場」センター長様，長岡西病院緩和ケア（ビハーラ）病棟部長様，長岡消防署総括副主幹第2中隊長様，新潟県臓器移植推進財団臓器移植コーディネーター様をお迎えし，「生命とは何か～最前線で働く方々から学ぶ～」をテーマとしたパネルディスカッションを催し，親子でお話を聞いた。

(3) 授業・部活動などでの充実した活動

◆技術・家庭科（技術分野）での学びを生かし，ロボットコンテスト新潟県代表として関東甲信越大会出場（3年連続）。

◆部活動では限られた時間の中で工夫して練習し，吹奏楽部が新潟県代表として西関東大会出場（2年連続）。男子ソフトテニス部・剣道部が県大会出場。

8. 外部資金

8.1 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っている。

平成30年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
27	基盤研究 (C)	笠 卷 純 一	大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3ヵ年の縦断的調査から
27	基盤研究 (C)	世 取 山 洋 介	福祉国家型教育財政構想の制度化の歴史的展開と現代立憲主義による正当化に関する研究
27	基盤研究 (C)	柴 田 透	公民・経済分野における理論的対立の歴史的分析及び教育方法の研究
27	基盤研究 (C)	張 間 忠 人	完全交叉のレフシェッツ性問題に関する研究
28	基盤研究 (B)	鈴 木 恵	学びのプロセスと日本語書記史を統合する学習材・カリキュラムの開発と検証
28	基盤研究 (C)	佐 藤 亮 一	レーダボアラリメトリによる自然災害発生時の被災住宅群識別および緊急救助用陸路検出
28	基盤研究 (C)	岡 野 勉	国定算術教科書の改訂過程に関する研究：教育実践研究との関連を基本的観点として
28	基盤研究 (C)	松 井 賢 二	大学生のキャリア成熟の変容を考慮に入れた包括的キャリア支援プログラムの開発研究
28	基盤研究 (C)	長 谷 川 敬 三	等質および局所等質多様体上の複素幾何構造についての研究
28	基盤研究 (C)	高 清 水 康 博	リアス式海岸や海成段丘から津波堆積物を認定する手法の構築
28	挑戦的萌芽研究	麓 慎 一	水産業の国際的展開と地域社会の変容－世界と東アジアをつなぐ日本－
28	若手研究 (B)	前 田 洋 介	コミュニティ・ガバナンスの制度と空間構造に関する日英比較研究
28	若手研究 (B)	田 中 誠 二	戦後復興期の衛生教育に関する実証的研究
28	若手研究 (B)	清 水 文 博	手書き文字の字形と学習者の主体性に関する研究－大正期から昭和初期を中心として
28	若手研究 (B)	平 尾 篤 利	放電環境制御によるマイクロ部品形状創成と高精細表面改質法に関する研究
29	若手研究 (A)	釜 本 健 司	日本の中等公民教育における政治的・社会的判断力育成の歴史的研究
29	基盤研究 (C)	興 治 文 子	科学筆記が呈する明治期教育改革の国際的関連－科学と科学教育の関係性に着目して
29	基盤研究 (C)	小 林 日 出 至 郎	ホメロスの運動文化思想に関する研究
29	基盤研究 (C)	岡 田 祥 平	現代日本語に観察される書体の多様性に関する社会言語学的、音声学的研究
29	基盤研究 (C)	神 村 栄 一	児童・思春期に受けた認知行動療法についての成人青年を調査対象とした後ろ向き研究
29	基盤研究 (C)	佐 藤 哲 夫	ベアでの美術鑑賞による「他者性の対話」の研究
29	基盤研究 (C)	足 立 幸 子	エビデンスに基づいた読書の認知的・非認知的側面の評価手法の開発と評価ガイドの提案
29	基盤研究 (C)	入 山 満 恵 子	認知特性の偏りを包括した学童期英語指導の体系化に関する研究
29	基盤研究 (C)	鈴 木 賢 治	X線応力測定法の粗大粒および微小領域への拡張
29	若手研究 (B)	田 中 恒 彦	ペリネイタル・ロスによる心理的問題の実態調査と支援プログラムの開発
29	挑戦的研究 (萌芽)	小 林 昭 三	明治150年理数工授業筆記等で究明する能動学習法の源流とその今日的再構成と創新法
30	若手研究 (B)	小 野 映 介	地形発達過程を考慮した自然災害発生リスクの評価
30	基盤研究 (B)	天 野 達 郎	運動に伴う汗腺機能の適応メカニズム解明と熱中症予防への応用
30	新学術領域研究 (研究領域提案型)	田 中 咲 子	身振り概念の変化のメカニズムに関する美術史的考察－古代ギリシア・ローマ美術から
30	基盤研究 (C)	本 間 伸 輔	英語・日本語における数量詞作用域の決定に関わる統語的要因についての理論的研究
30	基盤研究 (C)	福 田 学	教育学と脳科学の関係を自律性の観点から明らかにする現象学研究
30	基盤研究 (C)	古 田 和 久	社会階層構造と教育機会の格差に関する実証的研究
30	基盤研究 (C)	宮 蘭 衛	グローバル時代の異文化間コミュニケーション力育成のための東アジア共同研究体制構築
30	基盤研究 (C)	兵 藤 清 一	次代の郷土を創る人材に求められるコンピテンシーベースの歴史教育カリキュラムの開発
30	基盤研究 (C)	渡 邊 流 理 也	脳の酸素消費状態の評価に基づいた重度脳障害児の表出行動に伴う活動負荷の解明
30	基盤研究 (C)	中 島 伸 子	身体的痛みの理解と表現の生涯発達過程
30	基盤研究 (C)	工 藤 起 来	アシナガバチが行う個体認識についての包括的検討

8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成30年度における寄附金の新規受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄附者	目的
石垣 健二	石垣 健二	新潟大学における教育研究助成
牛山 幸彦	公益財団法人 日本卓球協会	卓球競技に関する研究助成
釜本 健司	釜本 健司	社会科教育とその教員養成に関する教育研究助成
横山 知行	医療法人 崇徳会	「チーム医療に求められる医療心理職の資質およびその育成に関する研究」への助成

8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成30年度における新規受託研究および受託事業は下表のとおりである。

○ 受託研究

研究担当者	委託者	研究題目
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰後の転帰に関する研究
志賀 隆	新潟市	新潟市域の水域に生育する水生植物の遺伝的特徴
志賀 隆	日光市	「シモツケコウホネ」保全調査研究
志賀 隆	学校法人 東邦大学	効果的な湿地モニタリング手法の開発
神村 栄一	独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター	ギャンブル障害の効果判定ツール作成についての研究
村山 敏夫	小千谷市	おぢや健康こいこいポイント事業
篠田 邦彦	公益財団法人 長岡市スポーツ協会	キッズアスリートチャレンジ事業

○ 受託事業

事業担当者	委託者	事業題目
英語科	文部科学省	小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業
村山 敏夫	新潟県	包括的な交通安全啓発創造プロジェクト「トリトン・セーフティ・イニシアティブーまち・生活・交通の安全な未来へー」キックオフ事業

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成30年度における新規共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
天野 達郎	株式会社ブルボン	スポーツ栄養食品の機能性評価研究
天野 達郎	森永乳業株式会社	乳たんぱく質素材の体温調節・エネルギー消費増加作用に関する研究
村山 敏夫	日産自動車株式会社	高齢者の交通事故抑止環境整備のための運動

(巻末資料)

平成30年度 新潟大学教育学部入学者状況

課程	募集人員 (220)	入学者数 A	男女別						県内・県外別等								
			男			女			県内			県外			その他 (認定試験・外国卒等)		
			人数	%	B/A	人数	%	C/A	人数	%	D/A	人数	%	E/A	人数	%	F/A
			B			C			D			E			F		
学校教員養成課程	220 (220)	226 (232)	117 (115)	51.8 (49.6)	109 (117)	48.2 (50.4)	128 (130)	56.6 (56.0)	98 (101)	43.4 (43.5)	0 (1)	- (0.4)					

備考：下段()は、平成29年度の状況を示す。

平成30年度教育学部卒業者の就職状況

平成31年3月卒業者

令和元年5月1日現在

課程	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数				就職内定者数				就職内定率 (%)			
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教員養成課程	217	13	15	23	113	53	189	23	113	53	189	100.0	100.0	100.0	100.0
学習社会ネットワーク課程	42	1	1	15	0	25	40	15	0	25	40	100.0	—	100.0	100.0
生活科学課程	15	1	0	5	0	9	14	5	0	9	14	100.0	—	100.0	100.0
健康スポーツ科学課程	31	3	1	3	6	18	27	3	6	18	27	100.0	100.0	100.0	100.0
芸術環境創造課程	54	11	3	2	6	32	40	2	6	32	40	100.0	100.0	100.0	100.0
計	359	29	20	48	125	137	310	48	125	137	310	100.0	100.0	100.0	100.0

注)平成30年9月卒業者を含む

教育学部附属学校生徒数

30. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	30
	4歳児学級	1	35	35	22
	5歳児学級	1	35	35	18
新潟小学校		12	35	420	409
	複式学級	3	16	48	47
長岡小学校		12	35	420	385
新潟中学校		9	40	360	353
長岡中学校		9	40	360	357
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	16
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	28
合 計		57		1,758	1,683

複式学級は外数